



彼女はオレのそばを通りすぎる
時に、ふふっと笑った。

濃い化粧に覆われていたが、面影
はしっかりあった。



当然だが普段の彼女とは全く印象が異なる。





オレの名は白鳥渚（しらとり・なぎさ）。
名前はけだし性別不詳だが、見ての通り
男にしか見えない平凡な男子だ。



そしてクラスメートでもひとときわ
存在感を放つのが、一ノ瀬結花
（いちのせ・ゆいか）だ。



オレは今高校二年生だが、入学当初から噂になっていた。「同学年に『バレリーナ』いるらしいぞ」ってね。

正直最初は「なんのこっちゃ」と思っていた。

一年次はクラスも違っていたので、思わず「見物」に行ってみたが、拍子抜けするほど「タダの女子高生」でしかなかった。要するに興味…じゃないな…習い事としてやっていたバレエで大きな大会でも好成績を残すほどの実力者ってだけだった。





そもそも「バレリーナ」なんつー
浮世離れた存在って本当に実在
するのか？なんて思ってた。
大体どこに行きや会えるのか分か
らんじゃないか。

お嫁さんなら式場にいるだろうし、
女子高生なら学校だ。チャイナド
レスは：多分高級中華料理店とか。
知らんけど。じゃあバレリーナは？





そう、バレリーナがいるのは、
「舞台の上」だ。

二年生に進学する直前、
普通の「TVニュース」
で一ノ瀬を見た。
外国のコンクールで
入賞したんだそうだ。

クラスが違うので伝え聞いた話
でしかないのだが、外部のレッ
スン場に通っているので、授業
が終わるとすぐに帰ってそこで
練習する日々だったらしい。

学校行事の多くにも参加せず、
「日焼けしないように」屋外で
の体育の授業すら出ていなかった。
その特別扱いにやっかむ声もあっ
たらしいが、受賞で全てが変わった。



A manga-style illustration of two female students in school uniforms. The student on the left has long black hair and green eyes, looking slightly down with a small yellow mark on her cheek. The student on the right has long black hair and red eyes, smiling. A third student with red eyes is partially visible on the far right.

帰国に一週間かかった後の初
登校の日。やっかみが多かつ
たはずの女子も歓迎ムード一色
になっていた。

A manga-style illustration of two male students in school uniforms. They are both smiling. The student on the left has black hair and is wearing a grey jacket. The student on the right has black hair and is wearing a dark blue jacket. Other students are visible in the background.

バレエのバの字も分らない
男子たちも「クラスに世界的
有名人がいる」ってことで
途端にちやほやし始めた。



…で…だ。この「バレリーナ」って
のがいい年こいた男にとってはどう
対応していいやらものすごく微妙な
代物なのである。

あのヘンテコリンな形状…。
思わず吹き出しそうになる。



余りにもユーモラスな
形状故に、

男性コメディアンの女装
衣装としての印象の方が
強いくらいだ。



スカートというには
余りにも形式的なそれ
やら、最初から半分…
いや全部見えてる
パンツ部分などなど。



そうこう言っている内に時は過ぎ、
オレたちは高校二年生になり、クラス
替えが行われた。

学園のバレリーナの話もすっかり
忘れていたところだった。



二年になって隣に机が配置され
たのがあの一ノ瀬だった。一回は
見かけたことがあったのに、すつ
かり忘れていて一週間くらい気が
付かなかった。



隣に座ってりやそりや色々話もする。ある時こう言われた。

白鳥ってさ、あたしにバレエの話とか聞かないよね。



まあ…話たきや自分から話すだろうしさ。

全く興味が無いといえば嘘になるが、かといって素人が興味本位で聞くのも悪い気がした。

それほど口数の多い方では無い一ノ瀬の話を総合するところだ。物心ついた時にはもうバレエのレッスンをしていたという。

自分にとっては当たり前だったが、やはり珍しい存在だったらしく、特に男子には随分からかわれたらしい。

正直それはある程度仕方がないと思う。小学生の男の子なんてバカそのものだ。ヘンテコな恰好でよちよち踊る女なんてそりゃからかうだろう。





実際、日本のバレエ人口はフランスに次ぐらしい。ただ、その大半は「子供の習いもの」で、発表会などの動員であるという。小学校高学年、中学とほとんど脱落していき、高校になっても続けていたのは一ノ瀬の通っている教室では一人しかいなかったという。

自分としては他の子が野球やサッカーなどの部活をしているのと変わらない意識なのに、妙に特別扱いをされるのが昔から違和感があった。まるで腫れ物に触る様で、自分としては普通に接してほしかった…そう
だ。



一ノ瀬には悪いんだけど、正直その直感
は当たっている。男どもは「バレエとか
(笑)」と頭から上から目線で小馬鹿に
する空気があった。

これがアイドルだモデルだならまだちやほや
もしただろう。しかし、あの恥ずかしいカッ
コでパンツを見せつけながらくるくる回る
なんてアホらしい…と思っていた。
ただ、民度の高い学校ゆえか決して態度に露
骨に出したりはしない。
そこが余計に気持ち悪かったというのだ。

そんな中、まったく変わらず接してくれている白鳥が新鮮だった…と一ノ瀬は言った。



ちやほやしてくれる女子ですらバレエとなると一観客の立場なのでどこかマウントを取られている気がしたそうだ。

そこへ行くとオレなんぞバレエ知識が皆無なので



知ったかぶりすらしない。「それ何?」「どういうこと?」など素朴な質問をしまくる。単にアホなだけだと思っただが、その反応も面白かったそうだ。



その飾らない性格故か、こっぴどく
しいがうっすら一ノ瀬のことが好き
になり始めていたかもしれない。

普段はごくごく普通の女子高生なのに
放課後は綺麗な踊り子になるなんて、
変身ヒーローみたいで格好いいじゃな
いか…なんてアホなこととも思い始めた。

そんなこんなでどういうわけか一ノ瀬の練習を見学させてもらうことができた。



靴や裸足、靴下では都合が悪いとかで、なんかトウシューズの安っぽい感じのを履かされた（練習用のバレエシューズ）。何だか場違いで偉く恥ずかしい。

ある程度覚悟はしてきたつもりだったが
圧倒された。

浮世離れた格好の女の子たちが
飛んだり舞ったりとまるで「おとぎ
話」の中に迷いこんだ様な気分だ。



中でもやはり一ノ瀬の
パフォーマンスは圧巻
だった。

オレみたいなど素人が見ても
分かるほどの存在感だ。



正直、半裸で踊る女の子たち：もちろん一ノ瀬含め：が間近で見られるというスケベ心もあってやってきたのだが：

真面目に真剣に汗を流す様子はまるでアスリートだ。冷やかしか気分だったオレはそっちの意味で恥ずかしくなった。



そして休憩に入る一ノ瀬はオレのそばを通り過ぎつつ
ふっと笑った。

濃いお化粧に汗だくだったが、実に美しかった。





そんなことがあった後も、オレと一ノ瀬
は程よい距離感を保っていた。

このまま順調に付き合いが続いて行ったり
すればいいな…とひそかに期待し始めていた。
…だが、世の中そう都合よくばかりはいかない。

それがこいつ「真宮寺明彦（しんぐうじ・あきひこ）」だ。クラスが違った一年生の時にはそれほど興味関心も示さなかった奴だが。同じクラスになった途端

猛烈に一ノ瀬に話しかけ始めやがったにわか野郎だ。まあ、人のことは言えないのだが。





ただ、真宮寺が凡百のにわかと違って
いたのは豊富な「バレエ知識」だった。



どうやらある程度は「いいとこの坊ちゃん」で
あるらしいヤローは観劇経験も豊富で、有名
どころのバレリーナやダンサー、演目の背景に
至る知識すら豊富だった。

一ノ瀬もこういう「正面から正統派」な
アプローチをされたことが初めてらしくて
かなり嬉しそうだった。バレエのチケットは
決して安くはないため、あれだけちやほやされ
ながらも一ノ瀬の舞台を観劇した上で感想を
言ってくれたクラスメイトが皆無だったこと
もある。



だが、オレは正直こいつ
のことが気に入らなかった。

別に金や権力がどうこう
ではない。



頭脳明晰、スポーツ万能に
加えて二枚目ともなれば
そりゃ女にはモテる。

だがこいつにはよからぬ
噂があるのだ。



それは「女癖の悪さ」だった。

元々のスペックが高いからモテるのに
女を落とすことに快感を得るタイプ
らしく、付き合い始めたとなったら
さっさと捨てて次に行くというのだ。

別れを告げられて放課後、校舎裏で
泣いている女子がたびたび目撃され
ている。





クラスでも良好な関係を築いて
いる一ノ瀬。もしも彼女が
真宮寺の野郎に傷つけられたり
したら…。



そんなことは想像もしたくない。
絶対に阻止せねば。

あ、真宮寺。おはよー

また一ノ瀬に危機感が無いもんだから見ていてハラハラする。
バレエなんつー高尚な趣味で一流プレイヤーなのに気取ったところが無いのは結構だが…能天気過ぎるだろう。

その為オレは、柄にもないことを決意した。

放課後はすぐに帰ってしまうので、昼休みに呼び出した。

どうしたん？白鳥。
改まって。

相変わらず舞台上やレッスン場
ではあんなにキリっとしてるの
に普段はぼんやりしている
一ノ瀬だった。

あのな一ノ瀬。
よく聞いてくれ。

こんな人間社会の暗黒面みたいな
話はしたくないが仕方がない。



真宮寺のことなんだ
けどな

ああ、真宮寺ね。
あいつがどうしたの？

気を付けた方がいい

…何言ってるの？



オレだってその場にいないやつ
の悪口なんて言いたくねえよ。

でもこいつはやべえんだって

オレは仕方なく真宮寺について聞いた
良くない噂について並べた。はつきり
言ってこの学校にいれば当然耳に入る
レベルの噂ばかりだったが、一ノ瀬は

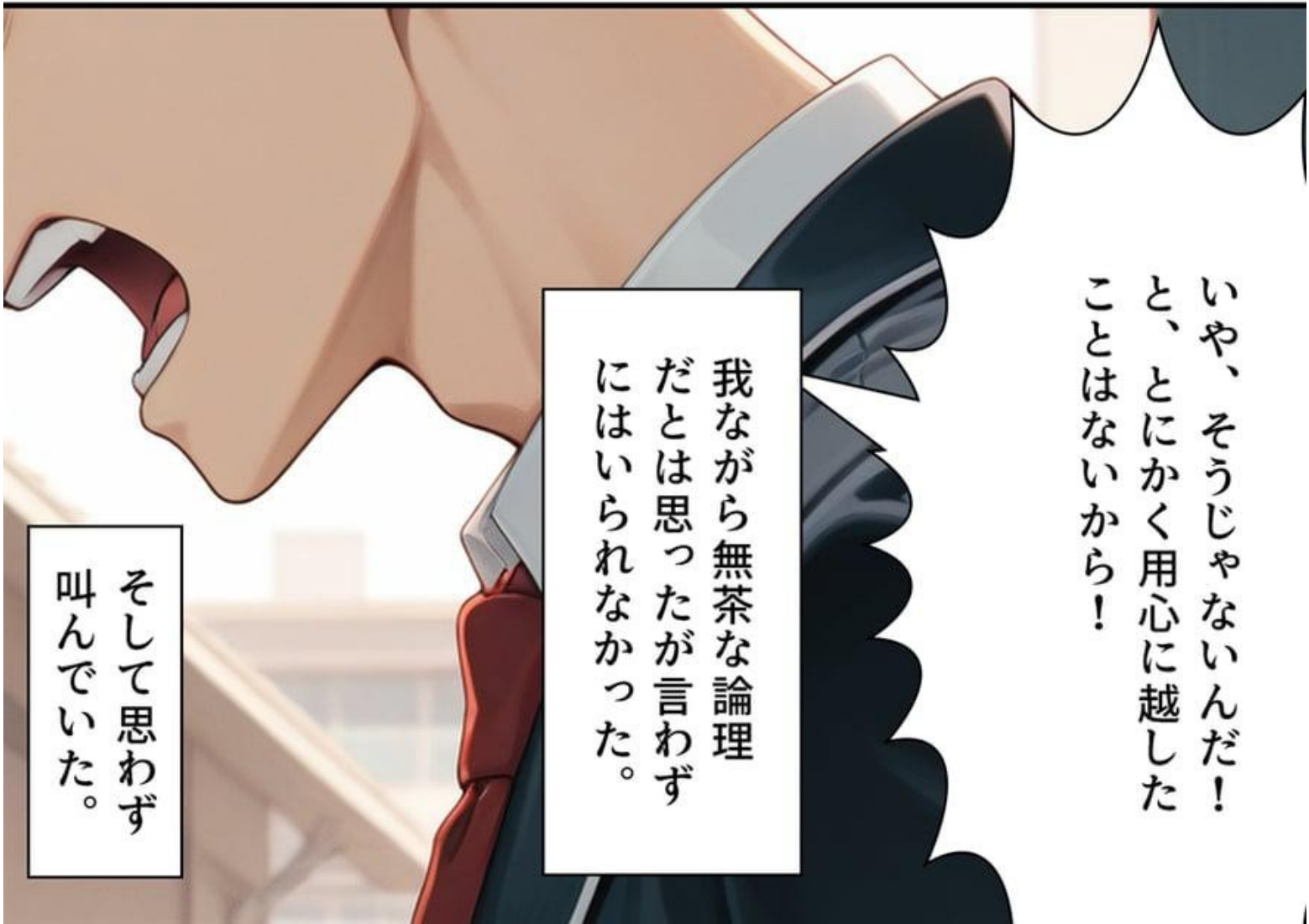
どれも全く聞いたことが無かったらしい。
単に女癖が悪いのみならず、配下の男子
生徒を引き連れて番長グループめいた組
織すら結成しているらしい。





白鳥：あんたまで他の
みんなと同じ様な事言う
んだね。

一ノ瀬は育ちがいいのか「人の悪
意」に悪い方向で敏感だ。無暗に
人を悪く言っではいけないと思っ
ているんだろう。



いや、そうじゃないんだ！
と、とにかく用心に越した
ことはないから！

我ながら無茶な論理
だとは思ったが言わず
にはいられなかった。

そして思わず
叫んでいた。

い、い一ノ瀬！お前のことが好きだ！
付き合ってくれ！

思わぬ言葉が口を突いて出ていた。



…え？…

余りにも意外な言葉だったのか、一気に毒気が抜ける
一ノ瀬。どうやらこれだけの存在なのに、いやそれが
故か「告白」されたことが無かった模様だ。





結局その日は余りにも急だから
ということでも明確な返事はもらえ
なかった。
そしてまた平穏な日々が訪れる。



真宮寺の野郎は相変わらず一ノ瀬
に声を掛けに来るものの、それ以上
のことはしようとしなかった。
オレが一ノ瀬に告白したのは、「付
き合っている相手が既にいる」って
ことでせめて奴の毒牙から遠ざけ
られれば…という意図もあった。

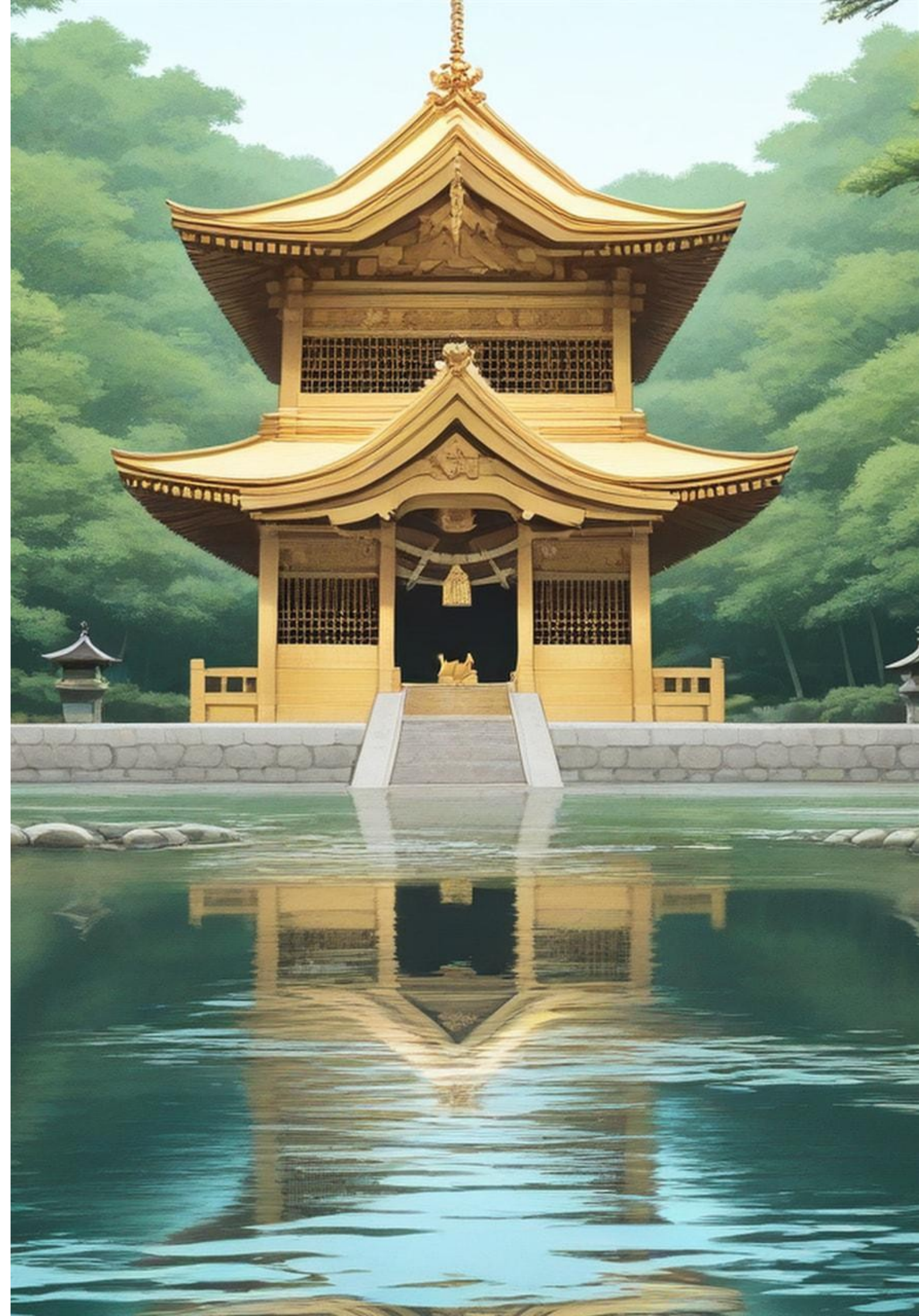
ちよつと白鳥！
あんたしっかりしてよね！

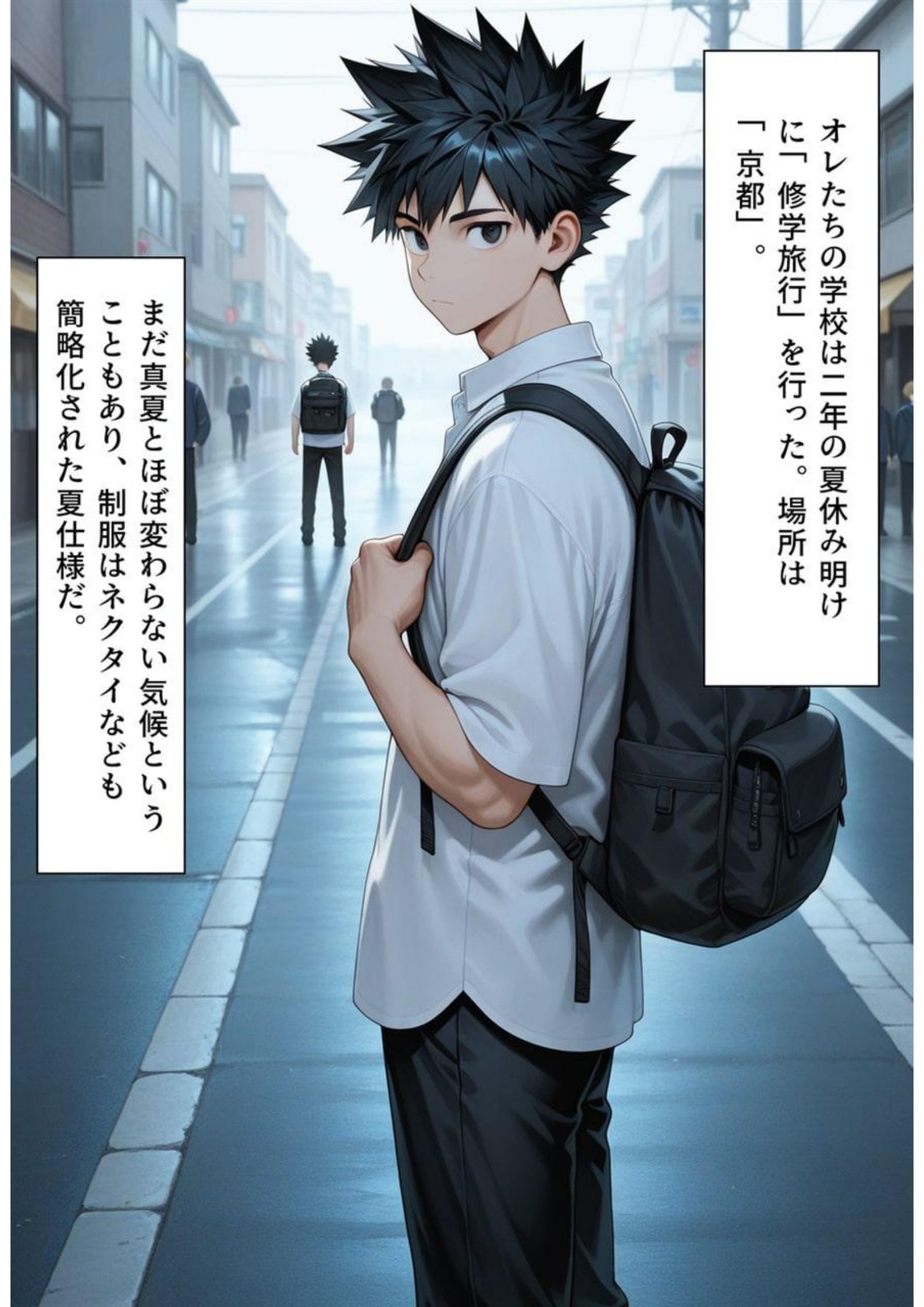
クラスメートの藤崎真由（ふじさき・まゆ）。一ノ瀬との共通の友人というところだ。一ノ瀬とオレの間に何かあったことを察知して釘を刺しに来た模様だ。



そして、あのイベントが
やってくる。







オレたちの学校は二年の夏休み明け
に「修学旅行」を行った。場所は
「京都」。

まだ真夏とほぼ変わらない気候という
こともあり、制服はネクタイなども
簡略化された夏仕様だ。

An anime-style illustration of two schoolgirls walking on a city street. The girl in the foreground has long black hair with bangs and red eyes, wearing a white short-sleeved shirt with a red bow, a dark blue pleated skirt, and a black bag. She is smiling and looking towards the viewer. The girl behind her has long black hair and is also smiling. They are walking on a sidewalk with other students in the background. A green street sign with the character '木' is visible in the upper right.

普段はこうした行事にはほぼ参加しない一ノ瀬が参加したことも軽く話題になった。彼女の周囲には自然と人が集まる。天性のスターなんだなあとと思う。



こいつは佐藤蓮（さとう・れん）。修学旅行の
同じ行動班に組み込まれた。歴史オタクらしく
どれも同じように古ぼけた建物にしか見えない

神社仏閣についてあれこれ解説してくれる。
中高生のガキには京都旅行はその価値が分からん
なんて言われてるが、こいつは満喫しているようだ。



ほぼ移動と宿の割り当てに忙殺された初日と違い、二日目は自由行動だった。一応の班分けはあるが、

仲良しグループと共に勝手に行動しているようだった。



確かに「子供」に分類はされる
だろうがとはいえ「高校生」で
ある。

特に問題なく「自由行動」は
行われた。



普段から仲良しの女子グループ
などは自由行動時間が開始され
ると同時に飛び出していった。

中には「自由行動」をいいことに、ちゃっかり
京都デートとしゃれこんだカップルもいた。

とはいえこの二人の仲は修学旅行のはるか前
には周囲にバレバレで、生暖かい目で見守られ
ながら京都の町に消えていったという。



一ノ瀬とはあの件以来、微妙な空気が
流れてしまっていた。

だが、実はこの日、自由行動の後半に落ち合う
ことになっていた。自由行動の前半は女子グル
ープと仲良く遊んでいるらしいので安全だろう
問題の後半にボディガード兼ねて一緒にいよう
というわけだ。



おう！どうした白鳥！
もう彼女に会いに行きたく
なったか！？

こいつはどういうわけか同じ行動班に
配された剛田竜牙（ごうだ・りゅうが）
である。





剛田は柔道部の主将を務める大男だ。
金で取り巻きを釣って裏番を気取ってる
真宮寺と違い、実力で学校をシメている
ともっぱらの評判だった。実際この見た
目のこいつにケンカを売る命知らずはそ
うはおるまい。

特に同じクラスになった女子に他校の不良がからんだり
すれば大変なことになると言われている。真宮寺が一ノ瀬
に一線を越えないのも剛田の存在があるからと言われている
た。本人は硬派で男臭く、高校の内は柔道に専念したい
から女とは付き合わないと公言している。それが更に別の
方向で女子にモテる存在だった。

その頃、同市内では奇妙な邂逅が行われていたのだが、それは後の話である。





一ノ瀬結花は道に迷っていた。
いや、実際には迷っていたというよりは、白鳥
との待ち合わせのため行動班を一旦解散して
一人っきりで京都散策をしていたら、

ほぼ人気の無いさびれた住宅街みたいなところに
迷いこんでしまったのだ。



ちよつと一人になるのは早すぎたかな…
とも思ったが、初めて来る京都をぶらつく
のも悪くない…と思い始めていた。

白鳥との合流の約束まであと一時間以上ある。
まあ何とかなるだろう…そう思っていた。



ふと視線を上げると、そこには真宮寺が
佇んでいた。



あれ？どうしたの真宮寺
こんな寂しいところに。
道に迷った？

一ノ瀬は能天気と言った。

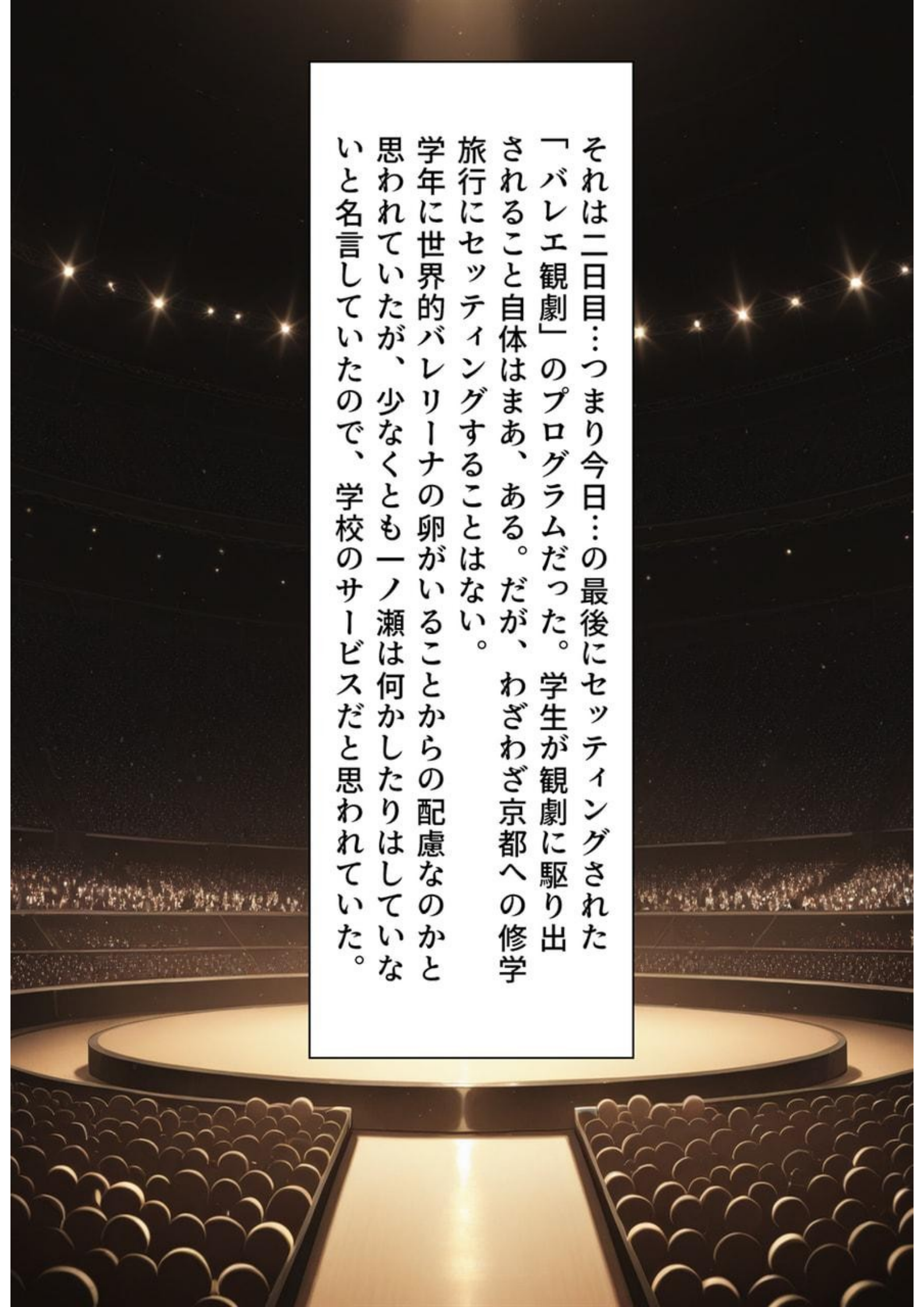
一ノ瀬こそなんでこんな
ところに？

まーいーじゃん。



真宮寺と一ノ瀬はその場で立ち話をした。
相変わらずのバレエ知識で盛り上がる二人。
そして真宮寺が一ノ瀬に「プレゼントがあ
る」と言い出した。

もしかしてあれのこと？と一ノ瀬は言った。



それは二日目：つまり今日：の最後にセッティングされた「バレエ観劇」のプログラムだった。学生が観劇に駆り出されること自体はまあ、ある。だが、わざわざ京都への修学旅行にセッティングすることはない。

学年に世界的バレリーナの卵がいることからの配慮なのかと思われていたが、少なくとも一ノ瀬は何かしたりはしていな
いと名言していたので、学校のサービスだと思われていた。

え？あれって
真宮寺の仕込み
なの？

あたしのゴリ推しじゃないか
って結構からかわれた
んだけど（笑）

正真正銘君のために
僕がねじ込んだんだよ

受け取ってくれるかい？

別に舞台観るくらいするけどさ…。
あたし踊らないよ？なんの準備も
してきてないし。

当然だよ！ゲストが
舞台にあがる必要
なんてないさ。

まさか本気であたしのために
あんたがそこまでやったの？





ああ、その通りだ。
単刀直入に言おう。一ノ瀬。
僕と付き合ってくれ。

真宮寺は静かに言い放った。

一ノ瀬は即答できなかった。何とも
言えない「違和感」を感じたためだ。
一見すると相手の女に気を遣っている
様でいて自己中心的な思考なのだ。

.....





!!っ!?



一ノ瀬は気が付いた。

袋小路の出口に別の男子が
立ちふさがっていた。

遂に危機感を感じた一ノ瀬は一目散に反対方向に走った。

しかし、そちらの方向も塞がれていた。あろうことか恐らくは真宮寺の手下の手には木刀らしきものまで握られている。



ふと真宮寺の方に視線を向けると、
信じられないほど邪悪な顔をしていた。





ちよつと真宮寺！
どういうつもりなの！？



見ての通りだが？
まあ、余り抵抗はしない
ことだ。

世界的バレリーナの卵の
顔や身体が擦り傷だらけ
になってもつまらんだろ

世界的バレリーナの卵、一ノ瀬結花は今の自分の置かれている絶望的な状況に戦慄し、背筋に冷たいものが走り抜けた。

どうしてこんなことになってしまったのか。



白鳥の「とにかく真宮寺はやべえ」という頭の悪い忠告にもっと耳を傾けておくべきだった。



単独行動を避けたり、人気の無いところには行かなかったりすれば…とも思うが後の祭りだ。

…あたしを一体どうする気なの？

現実感すら喪失した一ノ瀬はかすれる
様な声で言った。



どうなる？つてそりゃ
お前、いい年こいて
そんなことも分からん
わけじゃあるまい。

ガキじゃあるまいし。
…おっと…抵抗するなよ。
下手にケガなんぞすりゃあ
次の「舞台」に差し支えるぞ

いつの間にか一ノ瀬は、獣欲を
ギラつかせた「取り巻き」たちに
周囲を囲まれていた。



真宮寺さん。オレらにも
味見させてくださいよ。



そのうちな。

今日はオレだ。
周囲を見張ってろ。



「今日」…は？

はーっはっはっは！
こんな楽しいこと一回
きりで終わらせるわけが
ねえだろうが！

しっかりおめえの恥ずかしい
写真撮影しておいてやるから
逃げられねえぞ！

これからおめえは俺たちの
おもちゃになるんだよあ！



…そんなこととしてタダで済むと
思ってるの！？犯罪の証拠を
自分で残して…バカじゃないの？
表に出れば捕まるのはあんた
たちだよ！

確かにそうだ。
だが、裸画像を
バラまかれて
ダメージが大きい
のはどっちかな？

っ！！？

大人しく観念しな
踊り子さんよお。

An anime-style illustration of two male students in school uniforms walking through a crowd. The student on the left has spiky black hair and a red shirt under his white uniform shirt. The student on the right has straight black hair and wears glasses. They are both wearing white short-sleeved button-down shirts with a crest on the pocket and dark trousers. The background shows other students and a city street with a green traffic light.

白鳥：一ノ瀬のところに行かなくて
大丈夫か？

合流予定は一時間後だし：
あっちも友達と楽しんでる
だろうからまだいいよ。

そーいや思い出したよ。
一年の時に、バレー部の
次代エースって言われてた

子が自殺未遂の上未だに
引きこもりで学校来て無い
けど…あれ本当にあんた
だったってこと？

知らんね。自殺未遂も
不登校も本人が勝手に
やってることでオレには
関係ない。

まあ、あいつの「過激な」
写真は持ってるがね。

最低! どうして
そんなことすんの!?

そりゃより将来有望な女を
潰す方が楽しいからな。
それこそお前みたいナ。

…信じられない…



大体オレは上流階級の人間だぞ？
将来は同じ上流階級同士で結婚する
に決まってる。

ちよつと運動が出来る程度の
下庶民がこのオレと一瞬でも
「付き合ってる」気分になれた
んだから泣いて感謝すべきだろうが。











やめ...て...



ん？ああ、やめて
欲しいか。

ならやめてやってもいいぜ。

その代わりクラスの別の女子をやっちまうぜ。藤崎なんか丁度手頃な感じだな

…何言ってるの？
本当に頭がおかしいんじゃない？

別に藤崎じゃなくても誰でもいいぜ。
あ、教師にチクろうとしても無駄だぞ。
ウチの実家は太いんでな。これまでと同じく握りつぶすだけだ。





白鳥…ごめん…

一ノ瀬は覚悟を決め、あふれる涙
と共に、齒を食いしぼり、目を閉じた。





覚悟を決めた…のに一ノ瀬の身体には
何も触れるものすらなかった。

不思議に思っ
て片目を
開けてみた。



見上げた真宮寺は、まだ何もしていないのに、厳しい表情で脂汗を流していた。何か体調に異常を感じている様だった。





な…なん…だあ…？

突如、真宮寺の胸がまるで
乳房の様に膨らんできた。



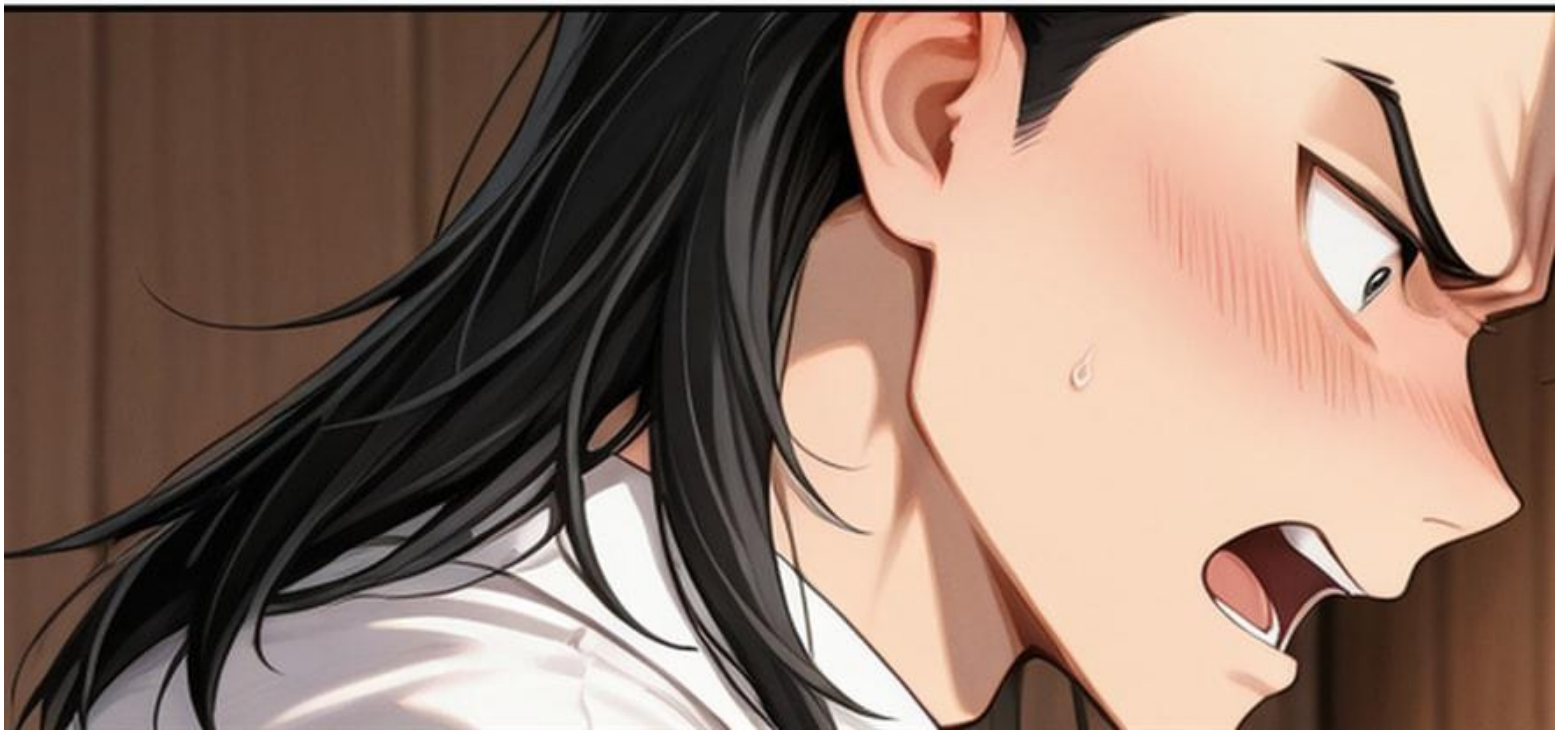
それは信じられない光景だった。

言うまでもなく、見る見るうちに
乳房が膨らむなどということが
現実にかかるはずがないからだ。

う、うわああああー！！

大きな乳房で股間を押さえつける真宮寺。
何が起きているのかは明らかだった。









ば…ばかな…

一瞬にして真宮寺の身体は女のそれに
性転換してしまった。

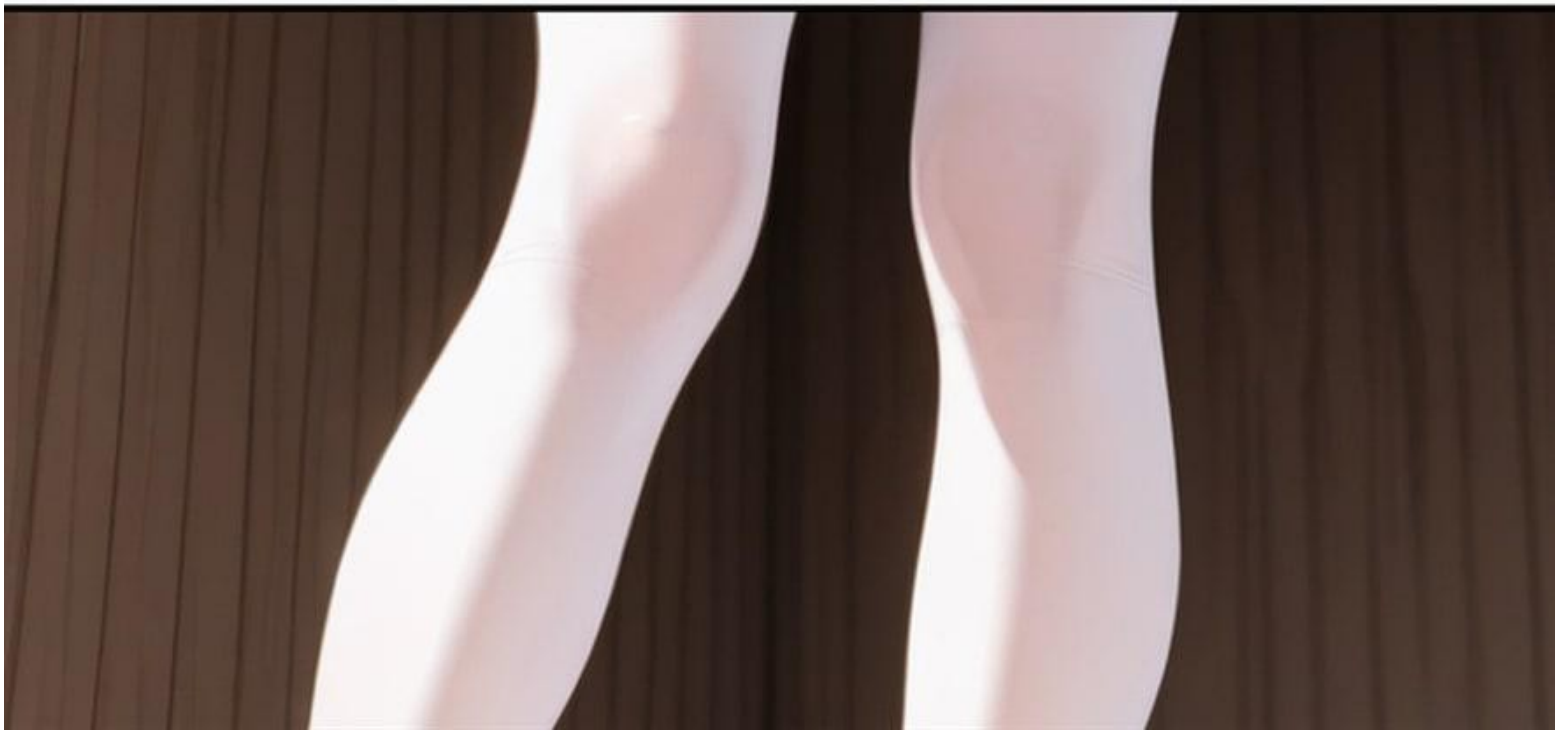


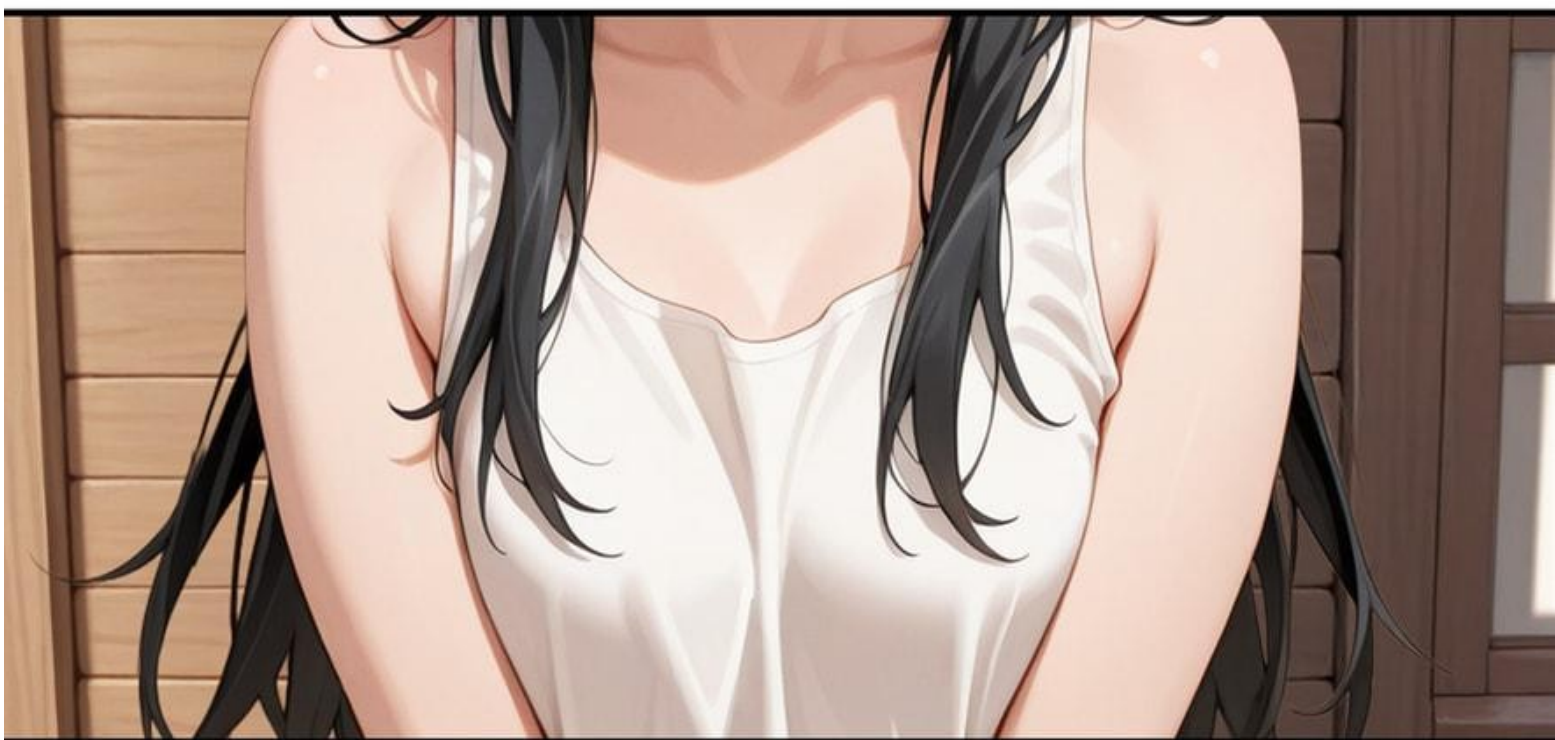


一瞬で男が女になるという
超常現象を見せつけられた
一ノ瀬は余りのことにどう
反応していいか分からな
かった。

だが、これはほんの序盤に
過ぎなかったのである。







おわああああーっ！



真宮寺は変わり果てた自らの身体を
見下ろして何やらぶつぶつ言い続け
ている。

一ノ瀬結花はその姿を
「練習着みたい」と思った。





事態は明らかだった。



学校一の伊達男だった真宮寺は今や女となり、着ている服はバレリーナのチュチュへと変わり果てたのだった。

仰向けに押し倒されていた一ノ瀬は
起き上がっていた。

まだ周囲に取り巻きがいる以上、事態が逆転したわけ
ではないが、「首謀者」の状況を見るに、「最大の
危機」は脱したと言ってよさそうだ。



い…一ノ瀬…助けて…くれえ…

オレを…元に戻して…くれえ…



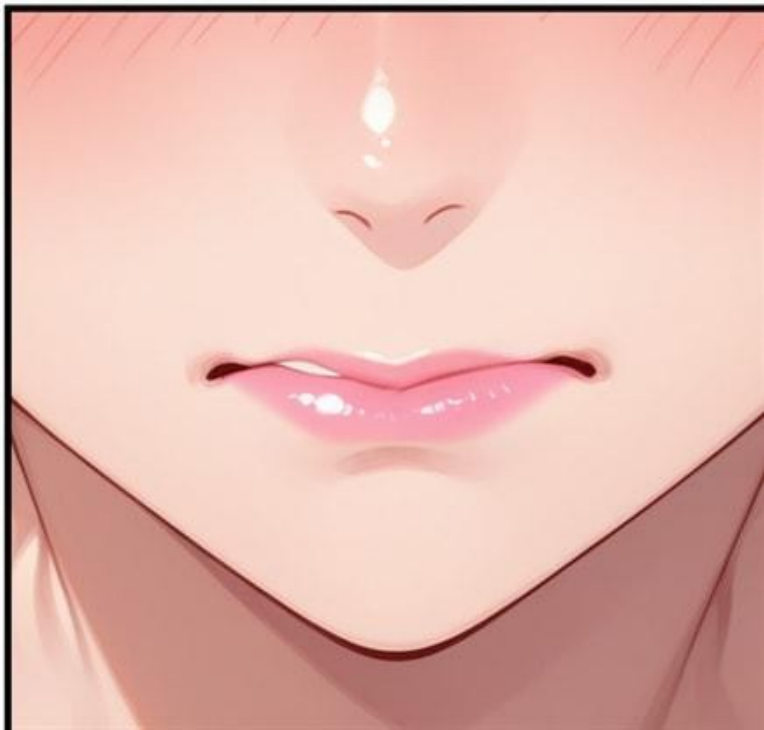
は？冗談は顔だけにしてくれる？

大体、あたしは確かにバレリーナだけど他人を「バレリーナにする力」なんて持ってないんでね。

一応関係者としちゃああんまり軽はずみに着てもらいたくは無いです。

女の人権をないがしろにするあんたにやお似合いだよ







学年一の色男は見る影もなかった。

細く華奢な身体を白銀の衣装に包み、重力に逆らうスカートを上下させ、濃い舞台メイクで佇んでいた。



お、お前ら！
構わねえからこいつ
やっちまえ！

真宮寺は見た目に似つかわしくない
叫び声を可愛い声であげた。





そこにあっただのは「悪夢」
だった。手下連中もまた、
全員がバレリーナとなっ
ていたのである。

どんなからくりなのかは全く分からない
が、真宮寺を含めたチンピラたちが全員
バレリーナになって呆然としているスキ

をついて一ノ瀬は猛然と走り
出し、その場を離れた。



一ノ瀬には確信があった。連中は女になって、バレリーナの衣装であるチュチュを着せられると同時に「トゥシューズ」も一緒に履かされている。トゥシューズは激しく踊ってジャンプしまくるバレリーナが履いているのでさぞ運動しやすいと思われるかもしれないが、トゥシューズでは「歩く」ことはほぼ出来ない。同様に「走る」ことも実際問題不可能だ。



あれはバレリーナ特有の立ち方である「つま先立ち」をするためだけに特化した靴だ。というより木製の詰め物をつま先に固定しているだけのものである。

なのでかかと部分を接地することをそもそも想定していない。

あれほど嚴重に足首にリボン巻き付けてあるのはひたすらつま先カバーが外れないようにしているに過ぎない。

普通にすり足の様に移動することは不可能ではないが、よほど訓練されていないと不可能だ。



かといってちよつとやさつとでは
すつぽ抜けない構造になっている。
つまり素早く脱いで追いかけてく
ることは難しい。

どうにか脱げてもほぼ裸足と変わらない
ので、砂利道やアスファルトを走って
追いかけることは無理だろう。

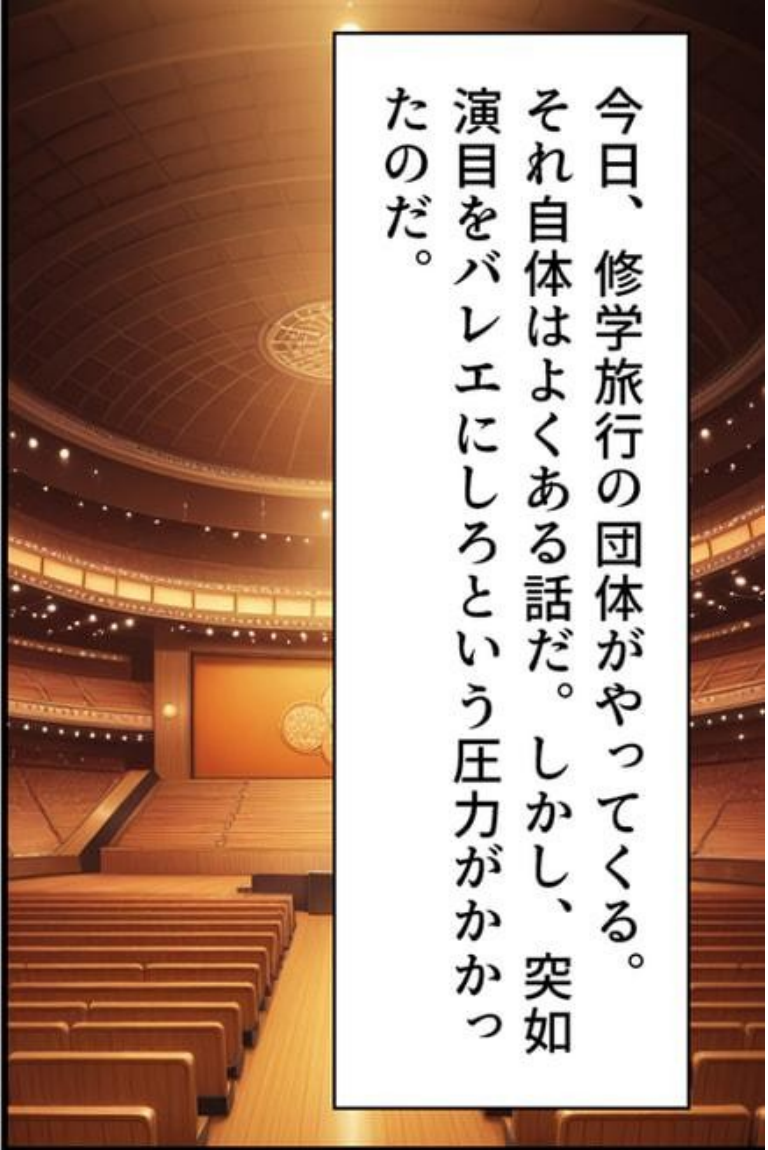




少し時間がさかのぼる。
某市民ホール。



人気の無い寂しい事務所の中で、
長月透子（ながつき・とうこ）は
苦悩していた。



今日、修学旅行の団体がやってくる。
それ自体はよくある話だ。しかし、突如
演目をバレエにしろという圧力がかかっ
たのだ。



急にそんなことを言われ
ても演者さんたちの都合
だっている。



懸命のブッキングを続けて来た
が、どこも急なオフアーに断ら
れた。そりやそうだろう。

そして先ほど、一縷の望みを掛けて
いたバレエ団体から断りの電話が
来たところだった。つまり、本日
バレエの演目を用意することが
不可能になったのだ。



おねーさん

突然呼ばれたので見てみると、どこから迷いこんだのか
小さな女の子がいた。「お悩みは？」なんてませたこと
を言うので、他の職員が一切いらないことをいいことに、
あらいざらいぶちまけた。



大体そんな急な話無理に決まっ
んだろ！こちとら便利屋じゃね
えんだ！…透子の言葉は後半には
もう怒号になっていた。



ふむふむ…つまり、バレリーナ
さんがある程度の人数確保でき
ればいいわけね。

まかせて！迷惑にならない範囲内
でちゃんと揃えるから！と確かに
その少女は言ったと透子は後に
証言した。

それにしてもいいよな白鳥は。
あんな可愛くて綺麗な彼女が
いてさー。

佐藤が思わず言ってきた。もう少し歩いたところ
にある駅でひとまず解散の時だ。





いや…別に…そういう
わけでもねーけど…

特に誰にも話した覚えはない。一ノ瀬から漏れるとも
思えないし…全く不思議な話だ。
そう思った時だった。



静かになったのでふと隣を見ると、あれほどにぎやかにしゃべり続けていた佐藤が脂汗を

だらだら流して固まっていた。

…どうした佐藤？

...? ...
どうした佐藤?

な...何か...身体が...
お...おかしい...



うわああっ！

さ、佐藤お前…



あ…あ…あ…



佐藤の胸はまるで巨乳グラビアアイドル
みたいに膨れ上がっていた。



ああ……ああ……あ……

佐藤は乳房に邪魔されながら
下腹部を触っていた。それが
何を意味するのかわからな
かった。





何ということだろう。

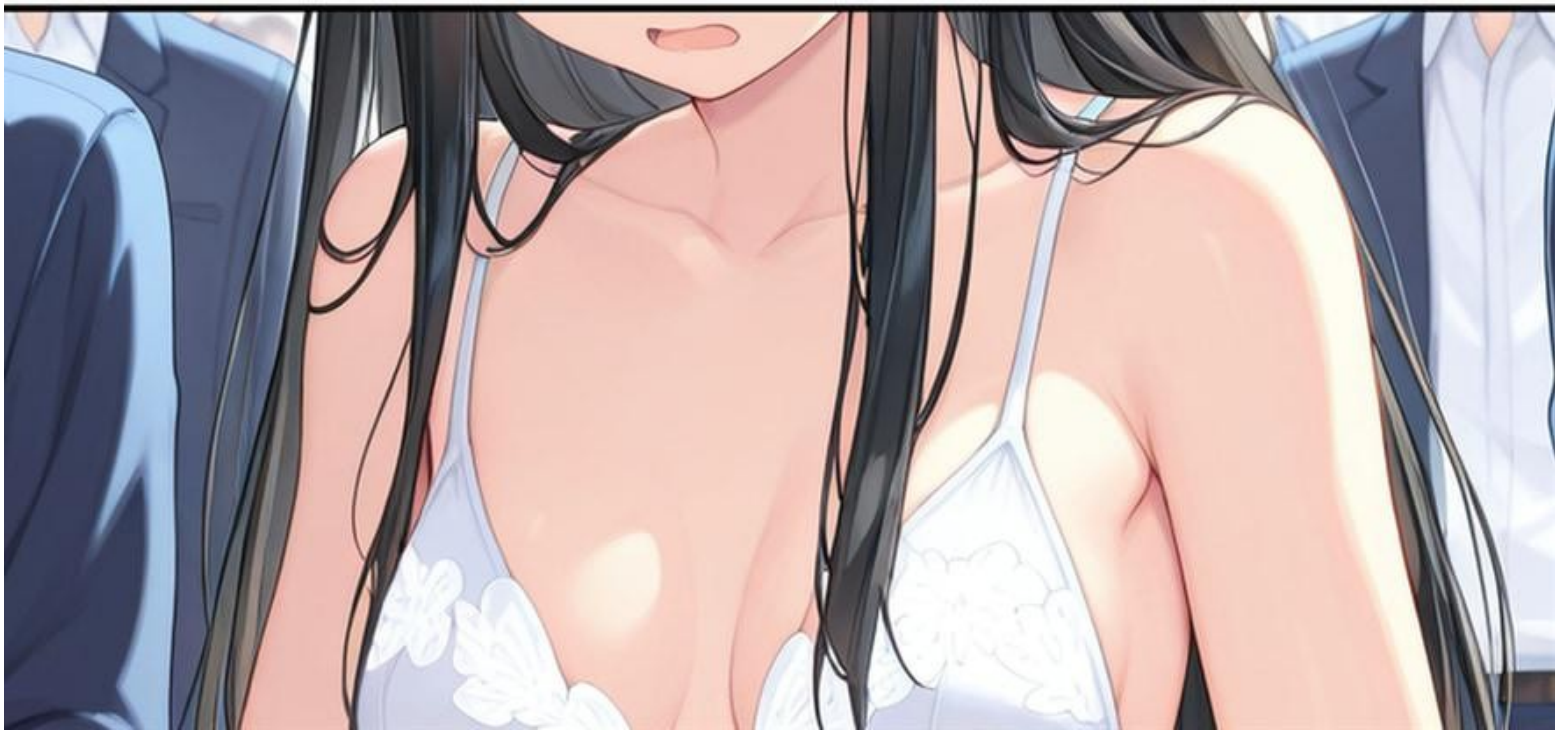
あれよあれよという間に、佐藤の身体は女へと性転換してしまっていた。





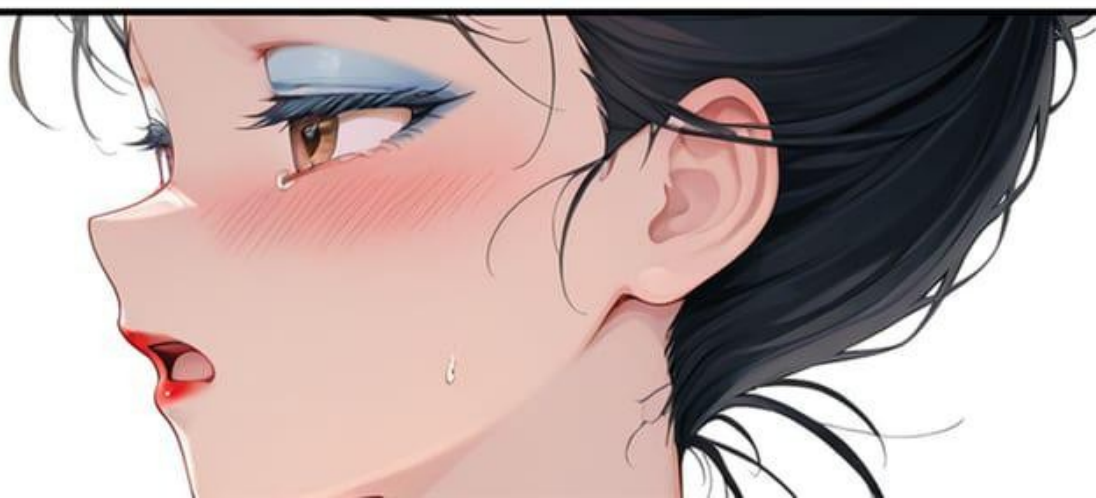
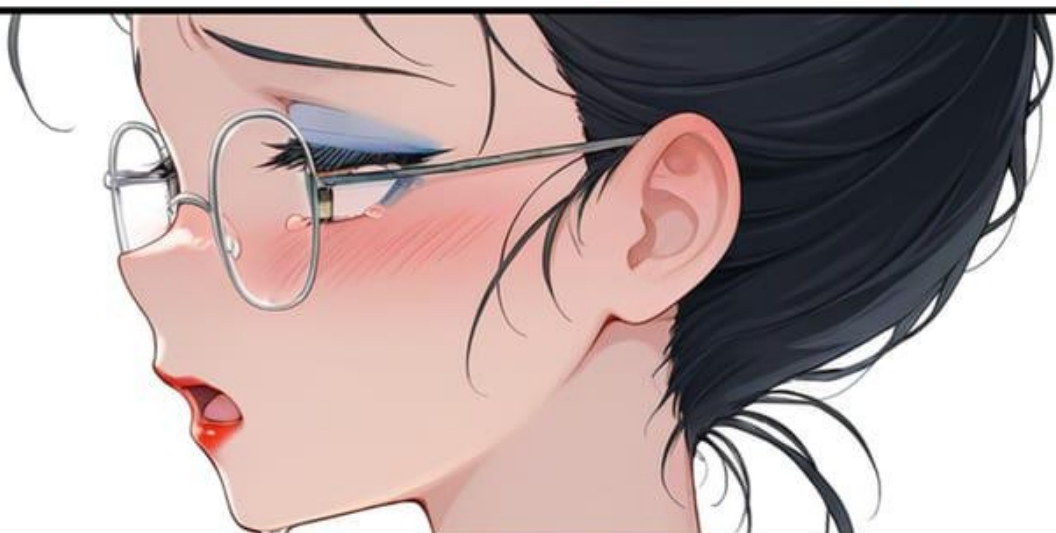
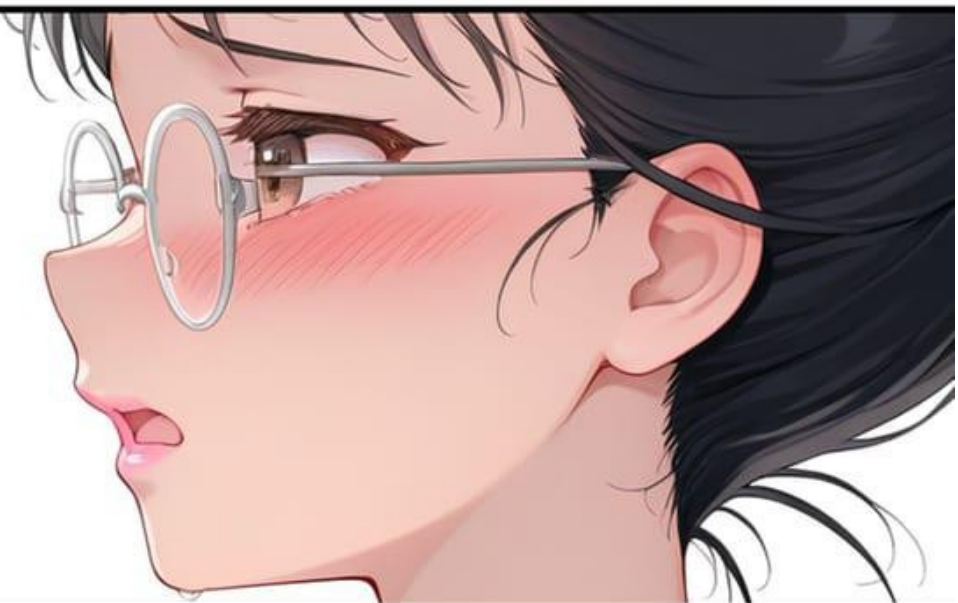


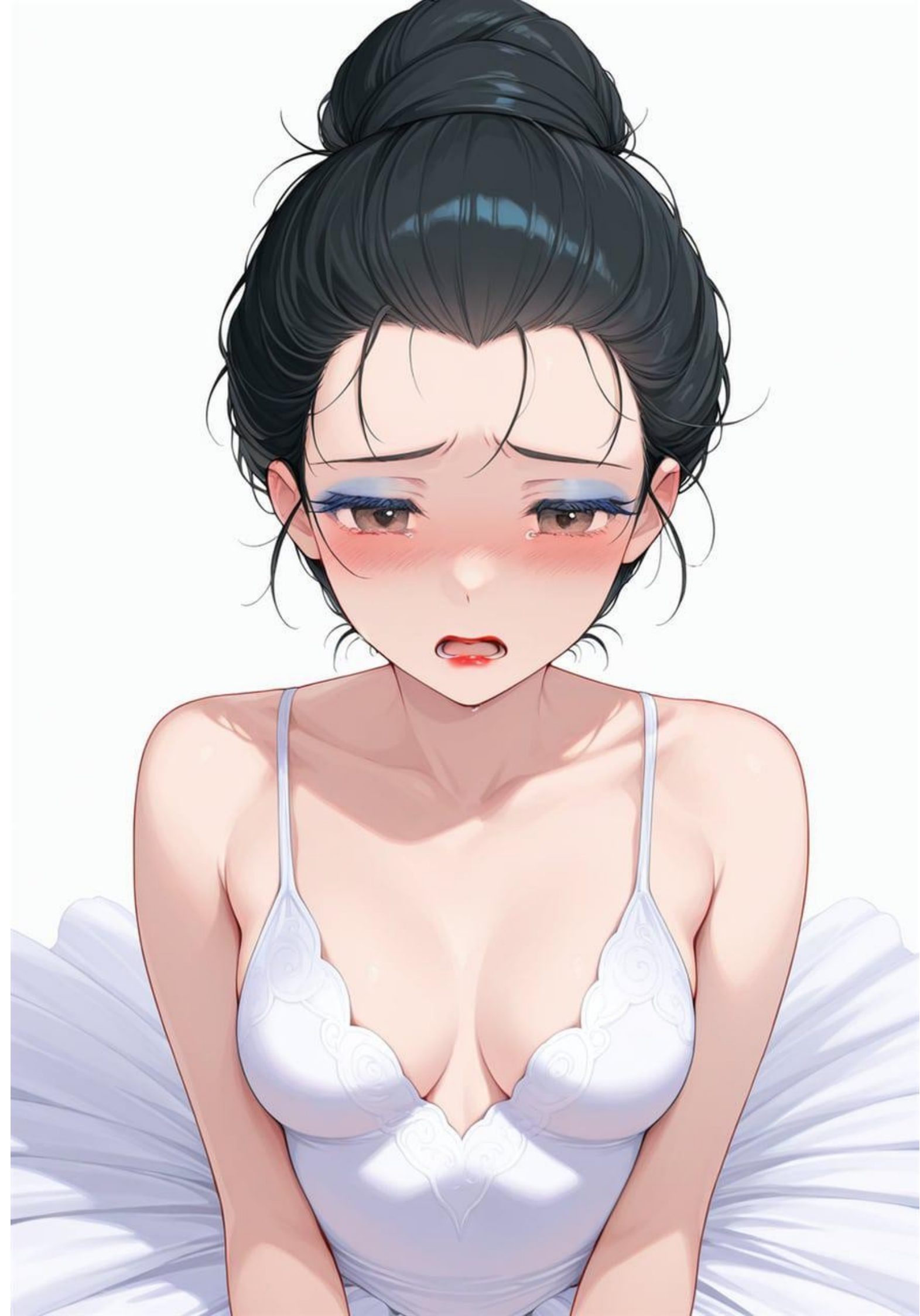
佐藤は、見たこともない奇矯な姿になっていた。













陽気な歴史オタクメガネ少年は今や
なく、全身バレリーナになってしまった。



観光客や修学旅行の学生が行きかう街中に
佇むバレリーナは正に「異様」だった。



少し近寄ってみるとまるで
一ノ瀬みたいな美しさだった。



佐藤…お前…
どうしちゃまったんだよ…

分かんない…





同時に周囲の男子高校生たちが次々に女体化し始めた。



突然の事態に困惑することしかできない少年たち。





















うわあああ!!
お、お前らみんな!?

な、何なんだよそれはああ!

その場にいた少年の内
かなりの人数が

お互いにバレリーナとなり果
てて向かい合っていた。



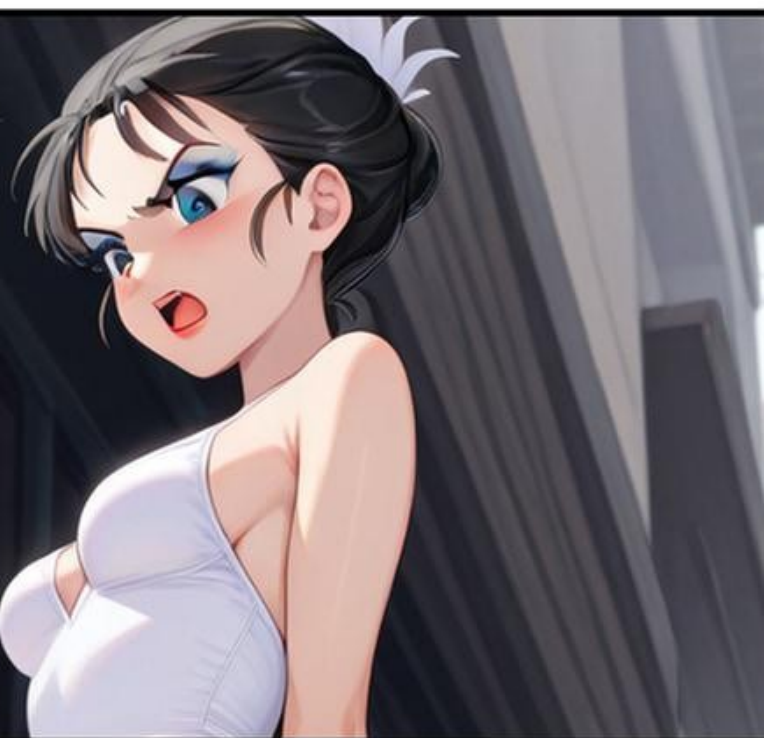


Two anime-style girls with long black hair and bangs are shown from the chest up. They are wearing white short-sleeved button-down shirts with dark collars and dark pleated skirts. They have dark backpack straps over their shoulders. The girl on the left has a wide-eyed, open-mouthed expression of shock. The girl on the right has a similar but slightly more composed expression. They are both holding their fists near their chests. A white rectangular text box is positioned between them, containing Japanese text.

不思議なことにこの現象に巻き込ま
れて「バレリーナ化」したのは「男子」
ばかりで、生まれつきの女子は変身する
ことは無かった。



当然だが、突如バレリーナ化した少年たちはバレエ経験すらなかった。





余りにも常軌を逸した出来事に、周囲も咄嗟に反応できなかった。

同時にオレは胸部に違和感を感じ始めていた。

ま…まさか…そんな…







し…白鳥…お前…も…

先んじて「白鳥」となっている佐藤
が心配そうにしてくれる。

うわ…あああ…

何ということだろう。俺の下腹部の膨らみは
どんどん体内に収納されていき、平らになっ
ていった。







あ……あああ……

俺の身体もまた、完全に女になって
しまっていた。





いつの間にか足首から先が奇妙な
感触になっていた。

靴部分が、本来は「バレリーナ」が
履くべき「トゥシューズ」へと変貌
していたのだ。

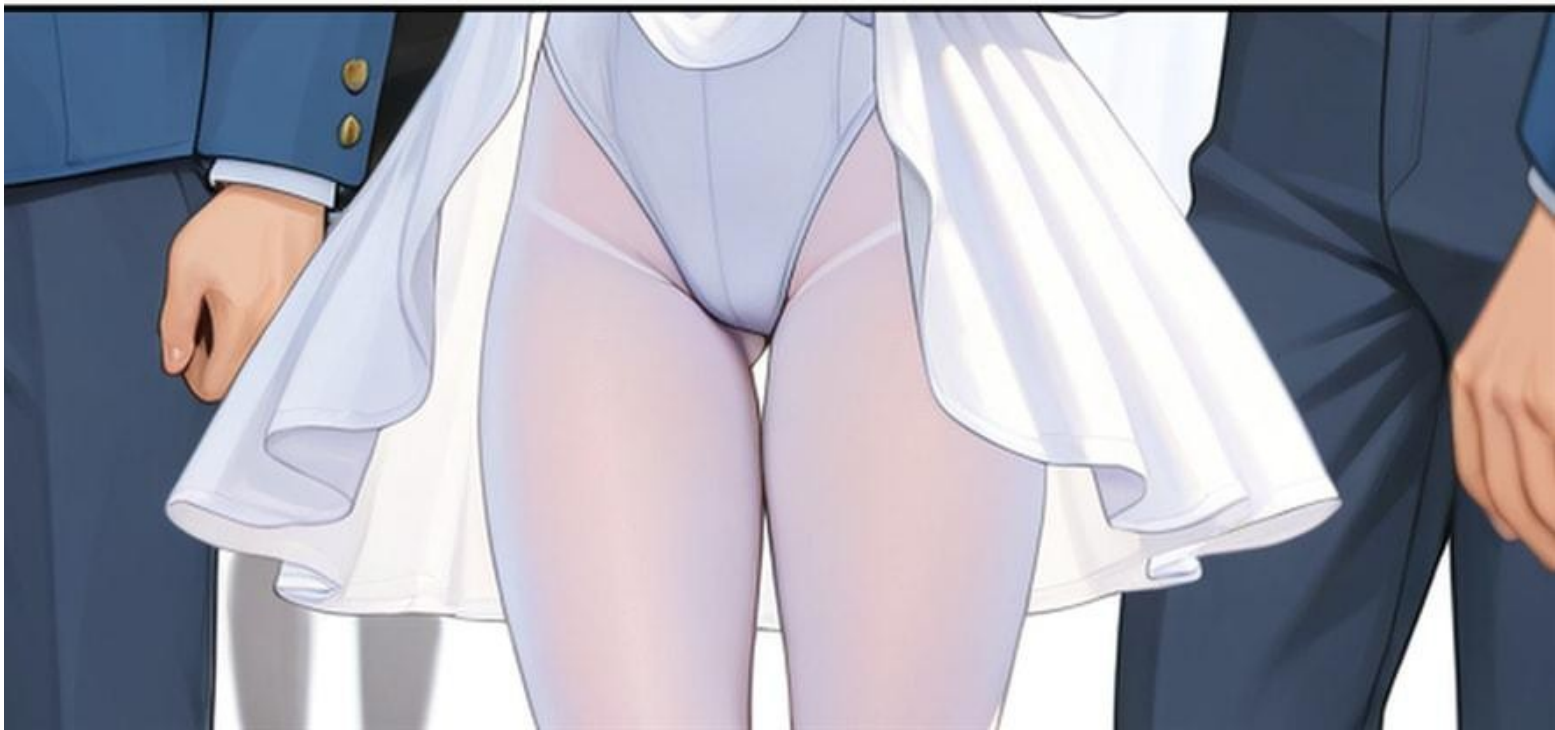


オレの身体は周囲の男たちが
そうであるように、女にされた上、
バレリーナ姿へと変貌しつつ
あった。





そんな…もう止まらないっていうのか…。



うわああああ!!

うわああああーっ!!

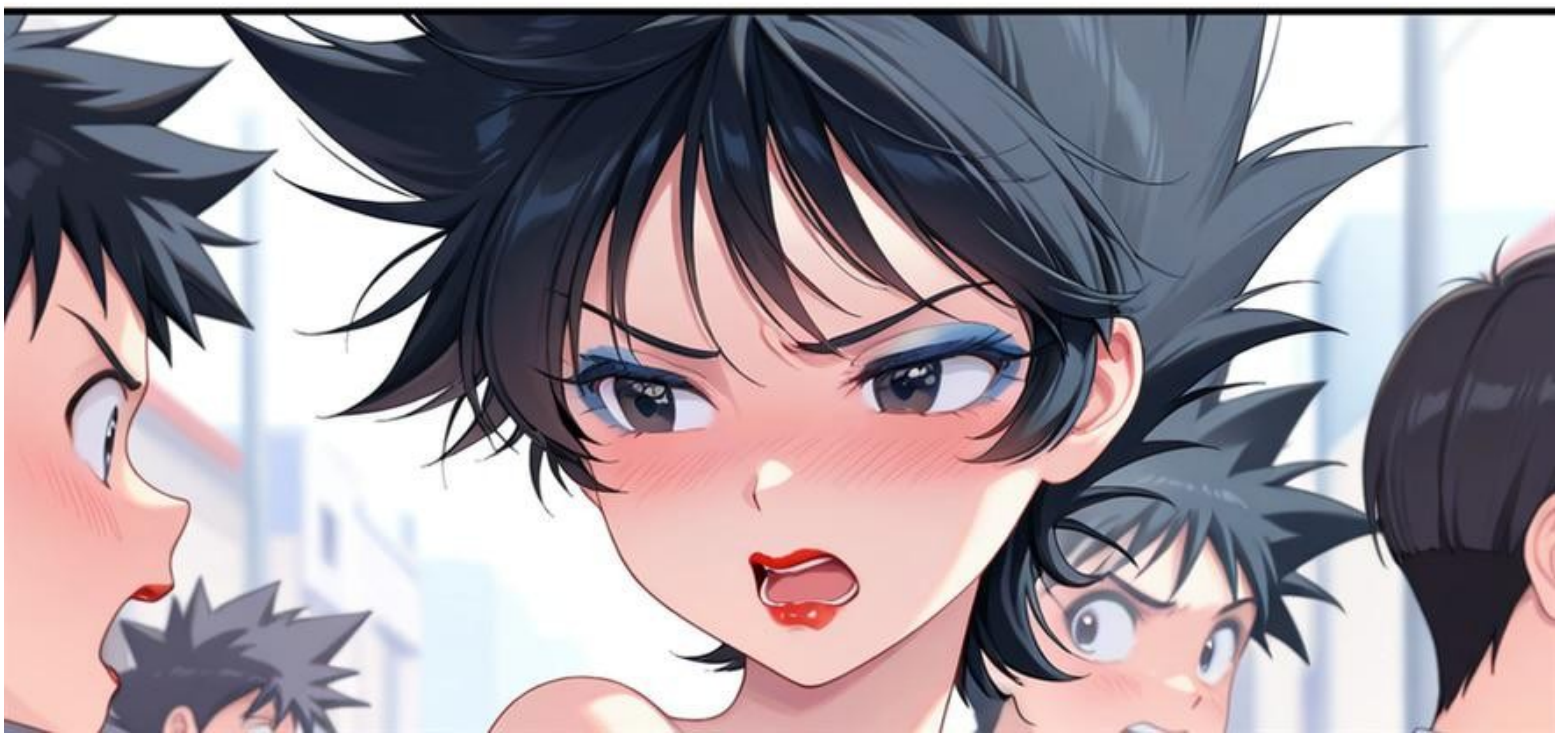


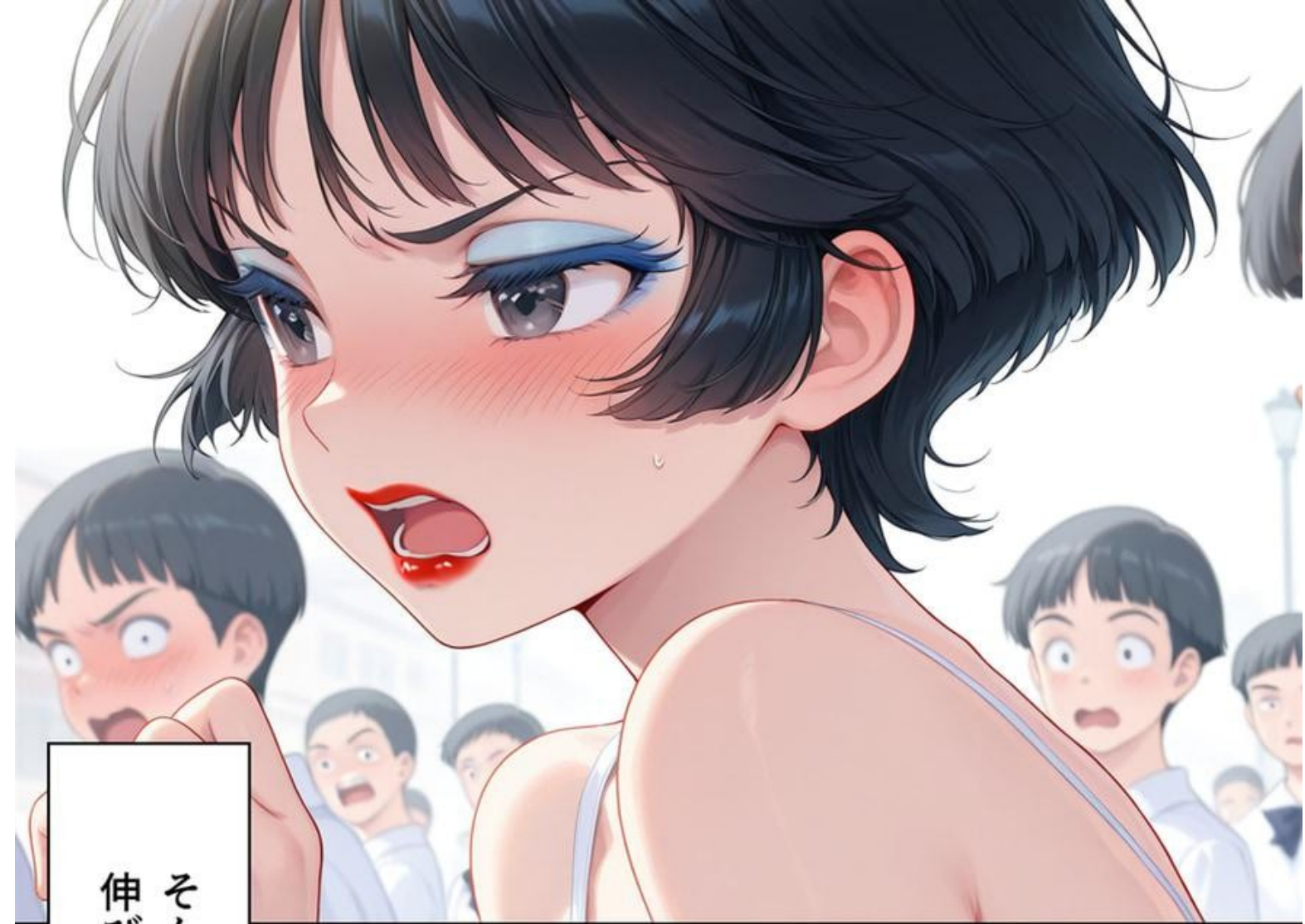


その時、唐突に一ノ瀬のバレリーナ
姿が思い浮かんだ。そんな…オレは今
あの時の一ノ瀬と同じ…バレリーナに
なってしまっているってことなのか!?

そんな…なんで男のオレ
が…ば、バレリーナに…





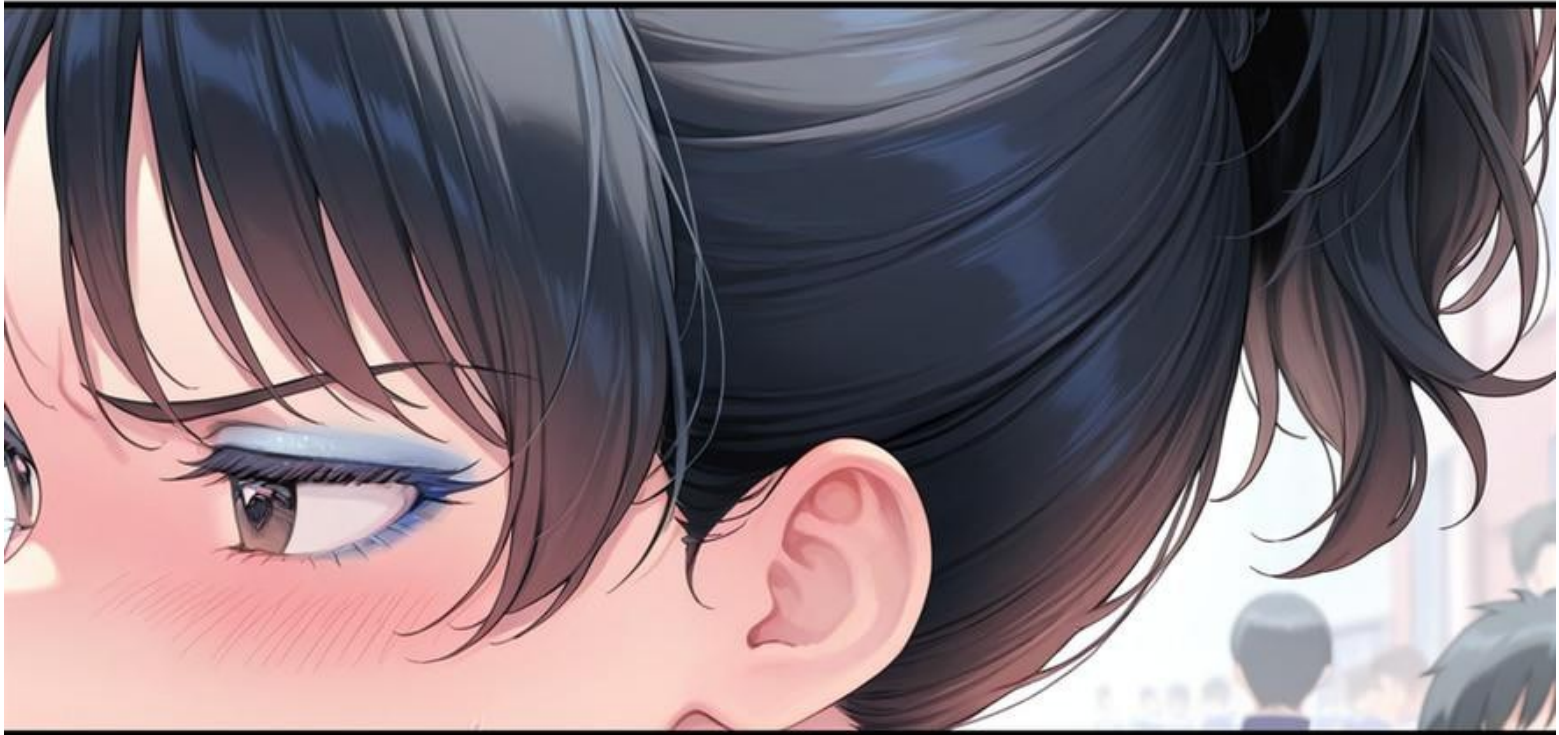


そんな…か、髪
の毛…まで…
伸びて…



な、何なんだよこれはあああ！





ど、どうしちゃったんだ
オレはああ！！

改めて言葉にするのも恥ずかしい
が、オレは女の身体に性転換させ
られたうえ、「バレリーナ」の恰
好にされていた。



なんということだろう。
オレは字義通りの意味で、
頭のとっぺんからつま先

まで、全身バレリーナに
なってしまったのだ。





ば…バカな…そんなバカな…

この突き出したおっぱいも…オレのだって
言うのか…!!?

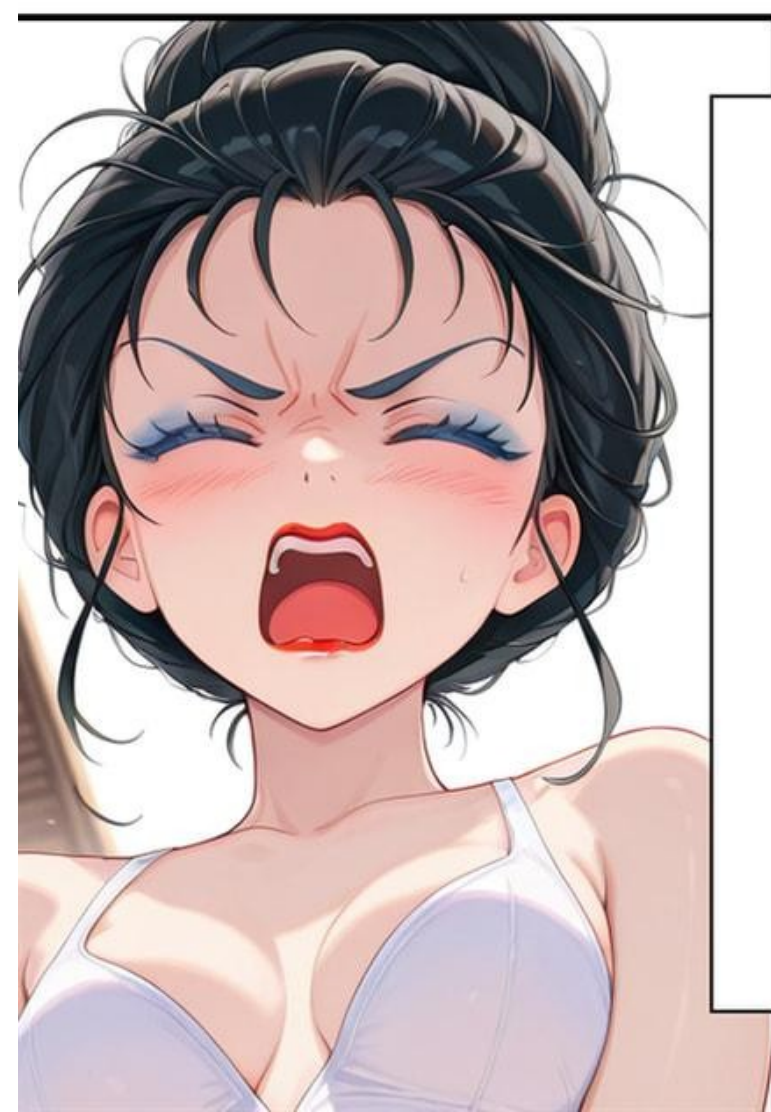


そんな…メイクや…髪型まで…ば、
バレリーナにいいいい！！
ど、どうしてオレが！オレたちがこんな目
に遭わなきゃならないんだあ…。



スカートに遮られて全く
見えないが、下腹部も
寂しい。

そ…そんなデリケートな
ところまで…女に…。

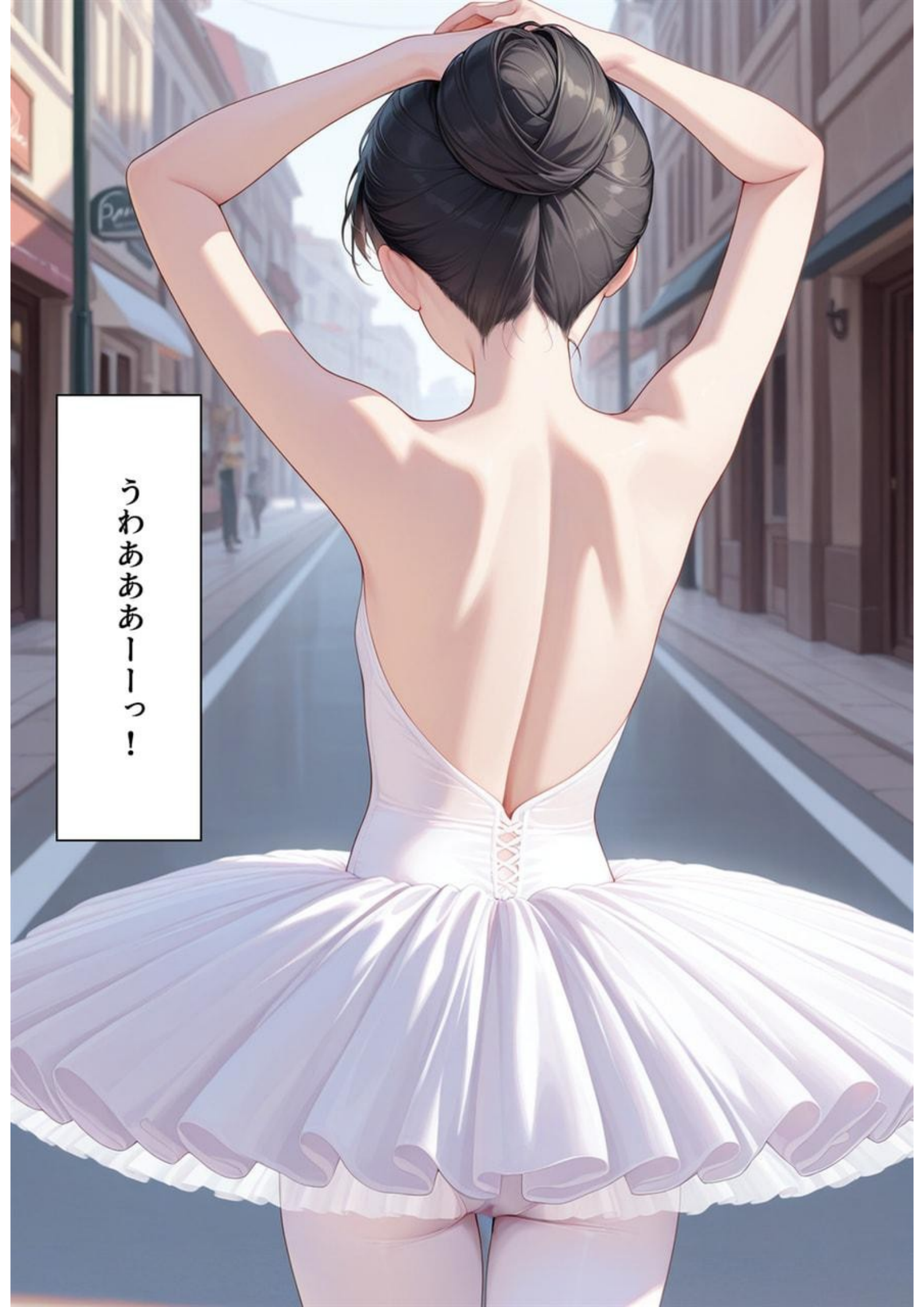


どうすんだよ女になっちまって！

あ…足も…トゥシューズじゃないかあ…

な、何でこんなものまで履かされなきゃいけないんだ…。
こ、これじゃ本当にバレリーナになっちまったみたい
じゃねえかあ…。





うわああーっ！

A full-page illustration from a manga or anime. Two young women, dressed as ballerinas in white tutus and ballet slippers, are the central focus. They are facing each other in a close, confrontational pose. The woman on the left has dark hair in a bun with a white flower accessory and is looking towards the other woman. The woman on the right has dark hair in a bun with a white flower accessory and is looking back at her with a determined expression. They are surrounded by a crowd of people in school uniforms, mostly men in dark blue suits. The background shows a bright, sunny outdoor setting with a clear blue sky and some buildings in the distance. The overall style is typical of modern Japanese manga art, with vibrant colors and detailed shading.

しら…とり…

さ…佐藤…

そしてそれは周囲も同じ
だった。突如繁華街に
「バレリーナ」があふれた。



バレリーナたちは、肉体や
外見は少女となったのだが、

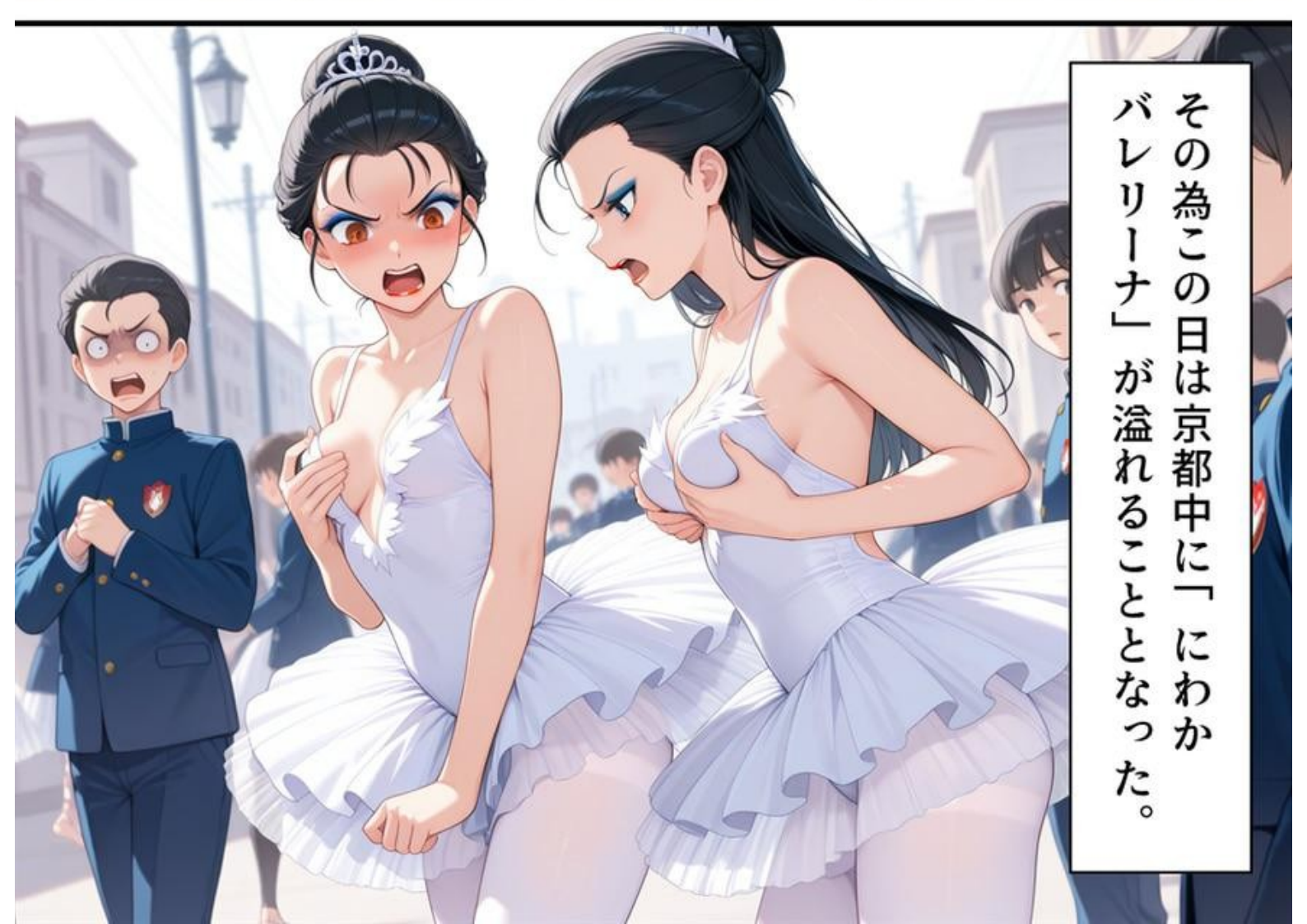
「精神」は「男子高校生」のままなので、当然ながら
大混乱となった。





白鳥らの高校の男子
生徒たちはあちこち

でバラバラにバレリーナ
と化していった。



その為この日は京都中に「にわか
バレリーナ」が溢れることとなった。

当然ながら、突如バレリーナになってしまった
元・少年たちは動揺して何もできなかった。



当然ながら修学旅行の参加者の半分は女子である。
バレリーナ化した男子生徒はとある一クラスのそれも
一部の人数だ。

この「狂態」を目の前にした生粋の「女子」は華やかな艶姿と
化していく「クラスメートの男子」を目の前にどう思っていた
のか。





やはり女子にとっても
あの恰好はユーモラス
であると同時に過剰に

「セクシー」でもあることが
複雑な感情を喚起したらしい。



「変身」が完了した直後くらいのこと。

「バレリーナ」たちの一部が
苦しみ始めた。





動くうううう！

か、身体が勝手に！



「バレリーナ化」には巻き込まれ
なかった男子もかなりの数があり、
彼らはクラスメイトが女子になり、

バレリーナ姿になるところを
「目撃」している。彼ら自身は
性転換も女装もしていないが、
深刻な「性癖こじらせ」を発症
した者も多くいるとかいないとか。



結論から言うと
バレリーナたちは

身体の自由を奪われ、自らの意志と
関係なく「移動」を始めた。



単独行動をしていて、周囲でたった一人だけバレリーナ化した男子もいた。半端じゃなく恥ずかしかったとのことだ。



流麗なステップを舞わされながら
「移動」させられていく少年
…いや、「少女」たち。



それはオレ自身も例外ではなかった。見せたくもないすっかり処理されたワキと、そして横乳を見せつけながらつま先立ちで「つつつ」と移動してしまふ。言うまでもなく身体が勝手に動いてのことだ。

観光客で賑わう繁華街に突如出現
した「バレリーナ集団」。
それは正に「異様」な光景だった。



A colorful illustration of three young people standing on a city street. In the center is a young woman with long brown hair, wearing a white t-shirt and a black backpack, waving her right hand. To her left is a young man with a tan baseball cap and a green jacket, smiling. To her right is another young man with short brown hair, wearing a blue jacket over a red shirt, also smiling. The background shows a city street with buildings and other pedestrians.

周囲の外国人観光客には大いに
受けた。何だかよくわからないが
凄いものが見られて興奮している。

まあ、それはそうだろう。

A colorful illustration of three young women in white ballet costumes with ruffled skirts, dancing in a line. They have their arms raised and are looking towards the viewer. The background is a blurred city street.

男の子たちが急にセクシーでユー
モラスなバレリーナになってしまう

なんて滅多にあることじゃない
(そりゃな)。



『踊り子』たちは皆、同じ方向に進んでいた。

「少年たち」は一見すると華麗に舞っている
様に見えるが内心は余りの恥ずかしさに
顔から火が出そうだったそうだ。

心の中では「こんなカッコ嫌
だよお！誰か助けてえ！」と
絶叫していた。





もちろん、それはオレ自身だって例外じゃない。
すました顔してうなじや背中を見せつけているが、
恥ずかしくて爆発しそうだった。

An anime-style illustration of two young women in white ballet tutus. They are in a dynamic pose, with their arms raised and bodies arched. The woman on the left is looking back over her shoulder with an open-mouthed expression, while the woman on the right is looking down with a serene expression. The background is a soft, out-of-focus grey.

街中でこのバレリーナ集団を見かけた
目撃者からは、「悩まし気な表情で
踊るバレリーナがよかった」などと

絶賛されたが、本当に恥ずかしくて
泣きそうな表情をしているだけだった
のだ。何しろ中身は男の子なのだから。

同行していた女子たちは
余りの異常事態にバレリー
ナたちを追いかけた。

「先生」に助けを求めたところでどうなるものでも
無いのだが、とにかく見失わない思いでどの女子も
必死だったという。



ほぼ同時刻、真宮寺たちの毒牙から逃れた一ノ瀬はとにかく人気のあるエリアに移動しようと思死に走っていた。



あ！結花！こんなところに！

大丈夫だった！？



大変なんだよ！
とにかく大変なの！



藤崎真由は足りない語彙でまくしたてながら一ノ瀬を先導した。



男子たちが次々に
「バレリーナ」に変身
しちゃってるのよ！

えええっ!?

それ！真宮寺たちも
同じだよ！

はああ！？
真宮寺たちもバレリーナ
になっちゃったの！？



An illustration of three schoolgirls in uniform walking on a city street at sunset. They are wearing light blue short-sleeved shirts, dark pleated skirts, dark knee-high socks, and dark loafers. They are carrying dark messenger bags. The background shows a city street with buildings and a warm, orange-hued sky. The girls are walking from left to right, and their shadows are cast on the ground.

バレリーナにされた少年たちと同じく、単に目撃していただけと思われていた女子生徒たちもまた、操られていたのである。

バレリーナ化を免れた男子生徒ともども、同校の関係者は一斉に同じ目標に向かって歩き、走らされていた。

それは二日目の最後に集合する予定の
市民ホールであった。





多くの生徒たちは、自分たちが操られている自覚も無しに客席に座り始めた。



中には「バレリーナ騒動」を全く知らない生徒も多くいた。

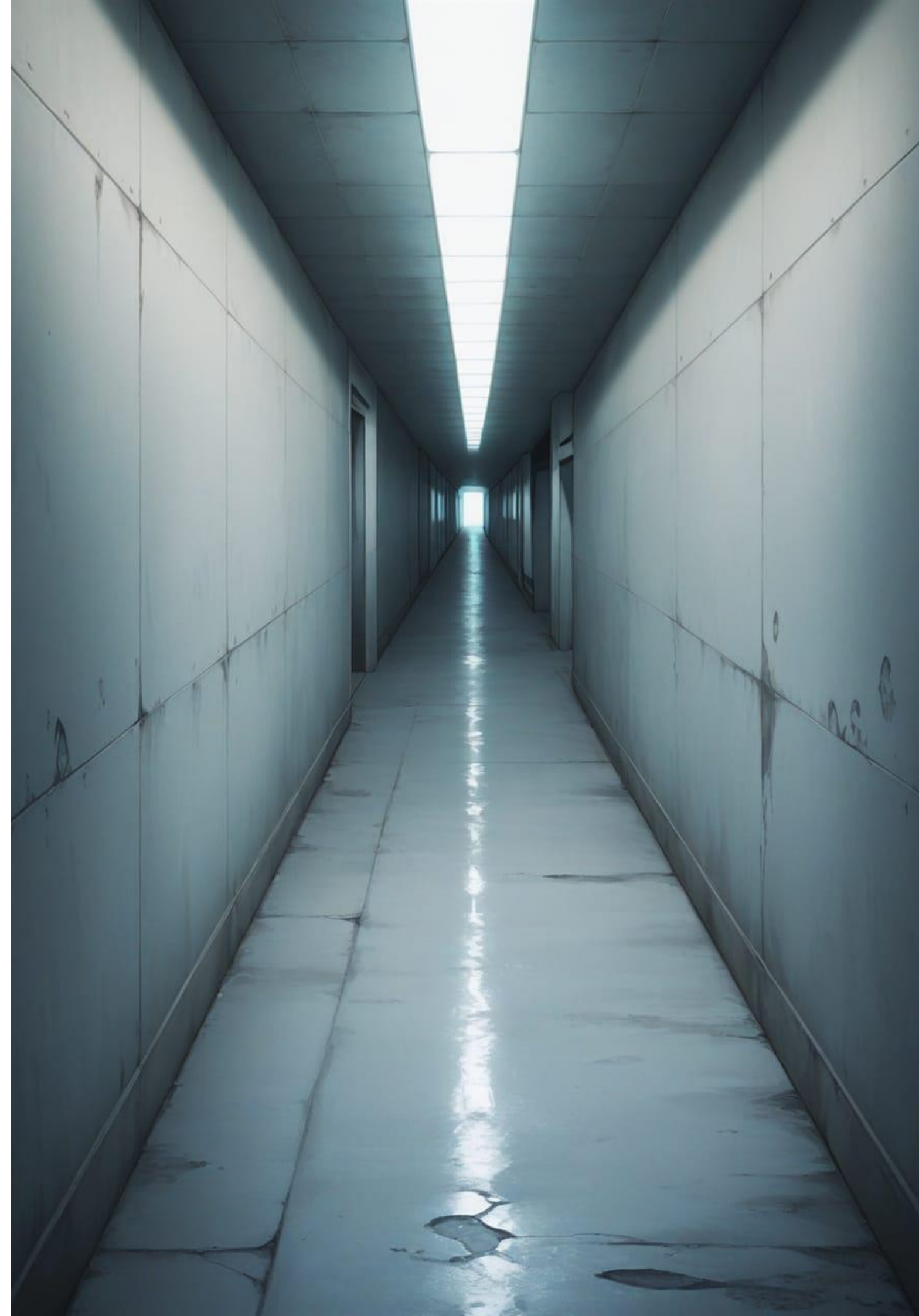


当然、「バレリーナ騒動」にも話が及ぶ
のだが、実際に見た人間すら信じられ
ないのにそんな話を聞かされても信じら
れる訳が無い。

当然それは一ノ瀬も同じ思いだった。

確かに目の前で真宮寺が女になり、バレリーナになるところを目撃はした。だが、今でも幻だったとしか思えない。







バレリーナにされた元・男の子たちは
ホール内にあった楽屋というか、控室に
集合させられていた。



「少年」たちは、「女だらけの楽屋」で
待機させられる屈辱に耐えていた。

濃い化粧の甘い香りでむせ返りそうだった。



当然ながら、普段だったら爆笑している「同級生」に対するひやかしなどは無かった何しろ自分自身もその姿だったのだから。





その部屋にはさすがにパフォーマーの楽屋
というか控室だけあって、大きな全身鏡が
あった。オレはこの騒動になって初めて
「鏡」を見た。

…え………？





そんな…これが…今の…オレ…!?

か、完全に「バレリーナ」になっち
まってる…。

そりやずつと主観視点じゃあこんな
感じだから自分がバレリーナになっ
てるのは分かる。しかし、改めて見ると
やはりショックだ。



しかし…それにしても一体何なんだ。
オレはこんなカッコした女になって
お化粧して女まみれの控室にいる
ために生きてきたんじゃないぞ…と
思った。





し、白鳥…

友人たちもまた
恐ろしい変貌を
遂げていた。

An anime-style illustration of three ballerinas in white tutus on a stage. The ballerina on the left is seen from the back, looking down at the ballerina in the center. The ballerina on the right is looking at the center ballerina. The center ballerina has her eyes closed and a slightly pained or shy expression. They are all wearing white tutus and have their hair in buns with white ribbons. The background is dark blue with bright stage lights.

それにしても正に壮観だった。
あっちを向いてもこっちを向いても
変な恰好した女だらけなのだ。

言うまでもなく全員が
元・男同士である。

だが、意外なほど現在のお互いの変わり果てた
容姿への言及はなかった。



泣いたりわめいたりすれば元に戻れる訳でもないだろうというある種の諦観だったのかもしれない。





そんな時、目の前に仁王立ち
して見下ろしてくる「バレ
リーナ」がいた。

…?!?

「あること」に気が付いたオレは
思わず立ち上がった。



A woman with dark hair in a bun, wearing a white leotard, looks angry with a furrowed brow and red lips. She is in a room with other people in the background.

も、もしかしてお前！
し、真宮寺なのかあ！？

A circular inset showing a man's face. He has dark hair and is looking slightly to the side with a concerned expression. He has red blush on his cheeks and sweat drops on his forehead.

あの男前も、すっかり「バレ
リーナ」となり果てていた。

色々言いたいこともあったのかもしれないが、
印象的なお尻を見せつけながら奴は去った。
「変身後」この楽屋にたどり着くまでに何が
あったのかをオレが知るのは数年後になるが
それはまた別の話。





華やかな姿になっていた少年たちだが、その胸中には「不安」しかなかった。



ステージパフォーマーの衣装を着せられて待機させられているということは、次に何をやらされるのかは明白だった。

いよいよ「その時」が来たらしい。

「少女たち」は次々に立ち上がった。



そして身体は勝手に動き、
ステージ前の廊下へと歩み出ていく。

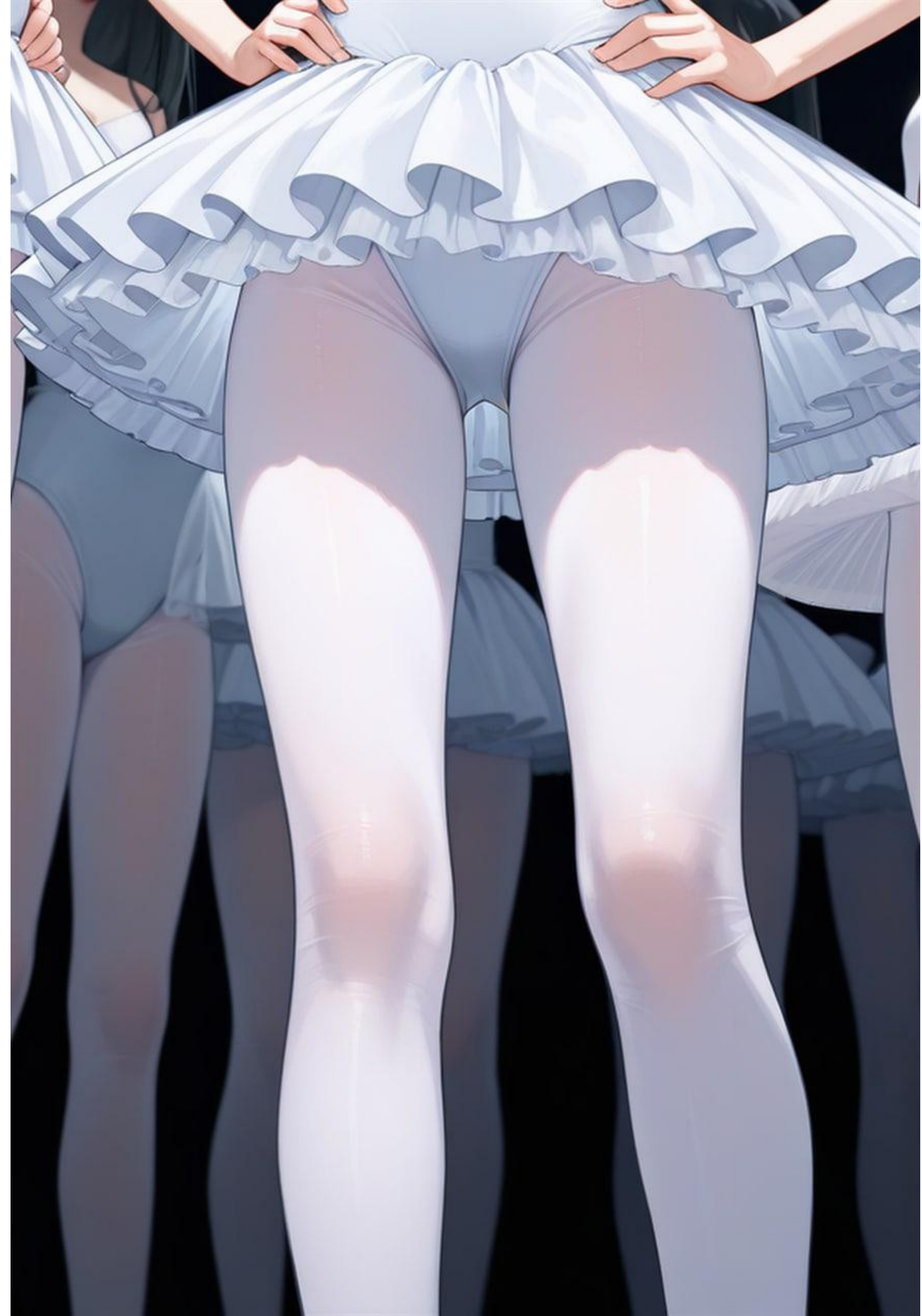




言うまでもなく、オレも
その中の一人だ。













まばゆいライトの下に
「踊り子」たちは一斉に
飛び出した。

多くの生徒たちは、また学校のお仕着せによる退屈な舞台でも見せられると思っていた。

だが、そもそもの最初から猛烈な違和感を感じてしまったという。



綺麗な舞台衣装に身を包んだ可憐な細身の美少女ダンサーはそれはそれは美しかった。

ダンスも見事なものだった。
…だが、そこには違和感があった。





綺麗なバレリーナさんたちに
うっとりする予定だった女子
たちも、ただならぬ雰囲気と
なる。

客席には動揺が広がり、先ほどの
「男子たちのバレリーナ化騒動」
がひそひそ話のレベルを超えて
ささやかれ始めた。

中でも特に艶めかしく妖艶な表情で踊るバレリーナが自然と注目を集めていた。そしてとある女子がとんでもないことを言い出した。



ねえ…あのバレリーナって…

真宮寺さん…
じゃないよね……



実にバカバカしい話だ。

真宮寺明彦といえば、眉目秀麗、
頭脳明晰、スポーツ万能の色男。
言ってみれば「男の中の男」だ。

それが可憐なバレリーナなど、かけ離れた話だ。しかし、先ほどの京都市内での男子のバレリーナ化に真宮寺も巻き込まれたのでは……?という疑惑が広がった。



そしてその推測は不幸にも的中していた。
可憐に舞い踊るバレリーナの
内の一人は、

確かに真宮寺明彦その人だったのだ。



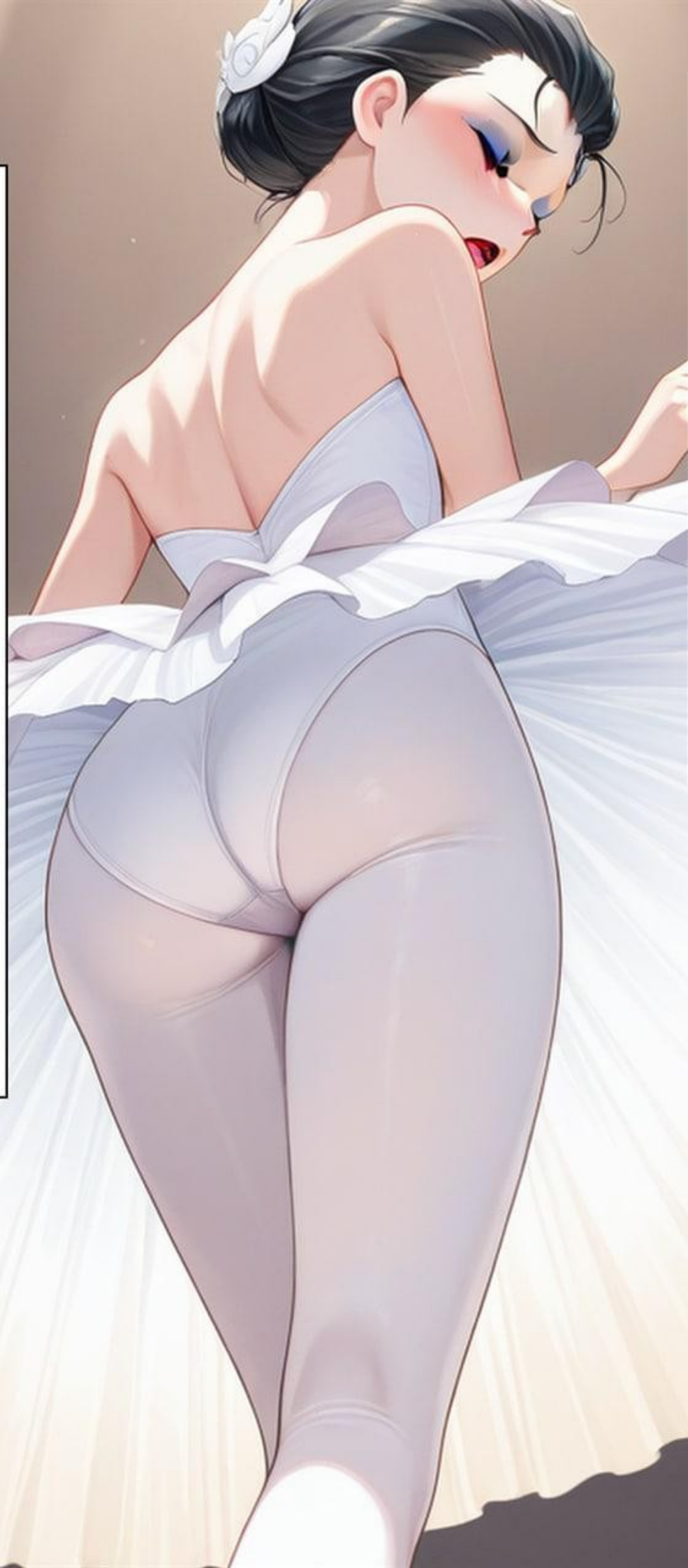


嗚呼そんな…身体が勝手に動いて…
踊って…しまおう…。

ど、どうしてオレが女の身体に性転換された
上に、こんな恥ずかしい恰好で公衆の面前で
バレエを踊らされなくてはならないんだ…。
真宮寺家末代までの恥辱だ…。

だ、大体何なんだこの衣装は！

こ、こんな最初からまくれあがったスカートでは
ただ動いただけでパンツ部分が丸見えではないかあ！





い、一体どこの誰がオレたちを
操っているのか知らないが、もう
いいだろう！十分だろう！？

もうやめさせてくれ！
誰か助けてくれえええ！



確かにうっとりするほど
美しい舞台ではある。



しかし、ぬぐえぬ違和感
が支配する。

それはバレリーナたちの
「悩ましき」を超えた
「苦悶」と「恥辱」の
表情だった。

まるで「バレリーナである
こと」そのものが恥ずかし
くてたまらないかの如く
だったのだ。



観客席に座らされている
生徒たちの内かなりのの

人数が、先ほどの京都市内のバレリーナ
変身を思い出し、恐ろしい結論に到達
しつつあった。



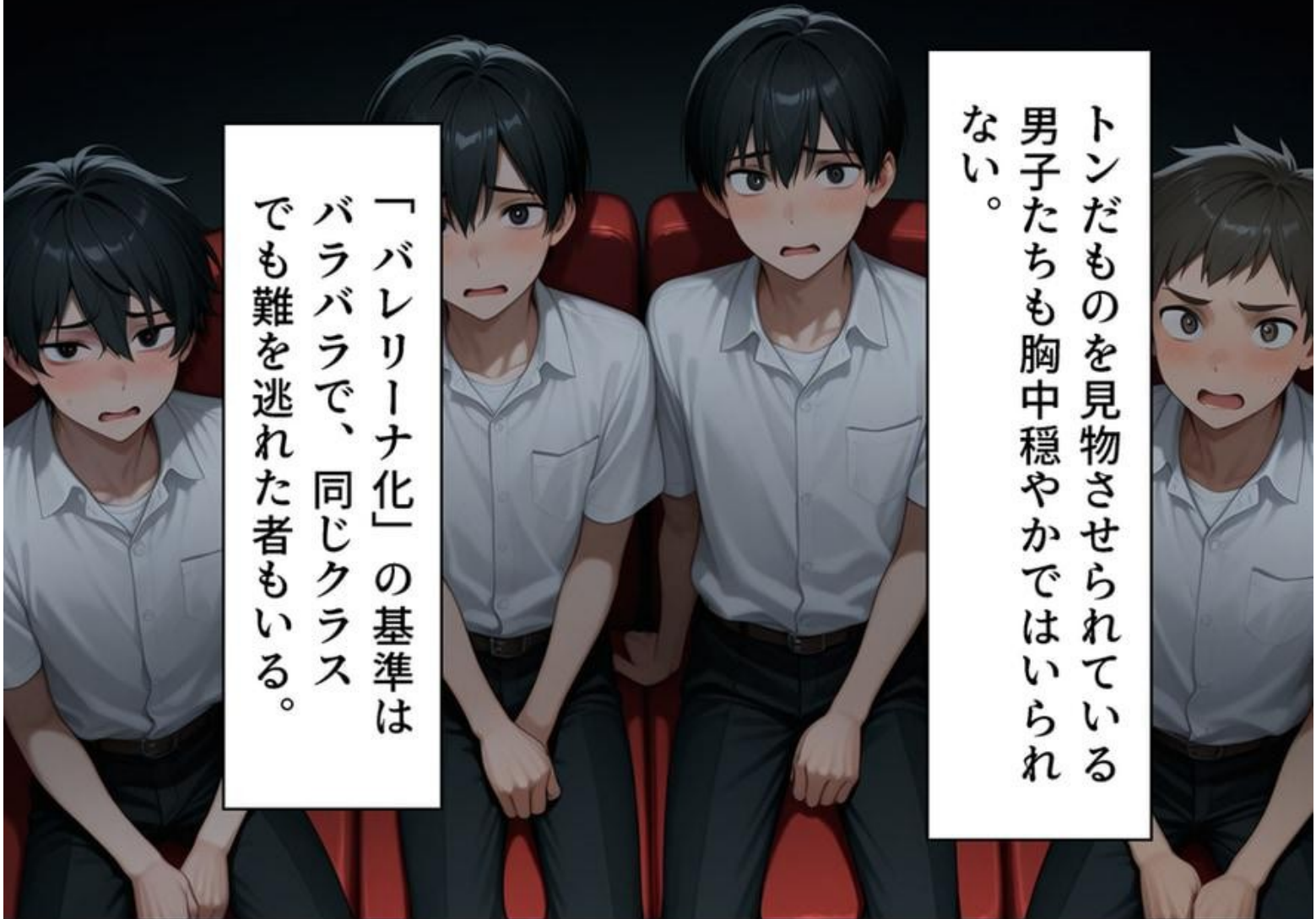
今、女として目の前で舞い踊っている「バレリーナ」
たちはついさっきまで自分たちのクラスメートだった
「男」たちの変身させられた姿なのではないか…と。



もし本当にそうであるならば、
その恥ずかしさも納得というものだ。

男にとって女装させられるだけでも
屈辱なのに、しっかりメイクさせられ
て女の踊りを踊らされていることにな
るのだ。





トンだものを見物させられている
男子たちも胸中穏やかではいられ
ない。

「バレリーナ化」の基準は
バラバラで、同じクラス
でも難を逃れた者もいる。



まかり間違えば自分たちもあの
女たちの群れに放り込まれていた
かもしれないのだ。

剛田竜牙もまた、同じクラスでありながらバレリーナ化を免れている。

剛田と真宮寺と言えば、方向性こそ違えども共に「男らしさ」を競っているような間柄だ。

それが方や「バレリーナ」では少なくとも「男らしさ対決」では「勝負あり」だ。

ましてや真宮寺は身体も女になっているのだ。

一ノ瀬結花にとってみれば、どれほど人気者であらうとも、真宮寺明彦は自分を集団で襲おうとしたクソ野郎である。

そんな奴がどうなろうとどうせもいい。きつと、女にされてバレエを踊らされるのはさぞ屈辱なんだろうが、因果応報、いい気味だと思えない。
しかし、一ノ瀬にはそれ以外に気になる踊り子がいた。





そのダンサーは一人で踊っていることが多い真宮寺と違い、群衆に紛れる様に悩ましい表情で踊っていた。

一ノ瀬の目から見てもとても美しかった。



間違はなく面影がある。あれってまさか：
白鳥…じゃないよね…。と一ノ瀬は思った。

今回の騒動を考えるに、真宮寺すら変身している以上、白鳥も巻き込まれている可能性は大にあった。



そして残念ながらその予感は的中
してしまっていた。
美しい踊り子として可憐に舞い踊
らされていたのは、白鳥渚その人
だったのだ。



一ノ瀬結花は怒っていた。

この会場の中では、変身させられたバレリーナを除く人間として恐らく一番怒っていた。真宮寺みたいなクソ野郎が言ってみれば天誅として「女にされ」るのは分かる。女を襲おうとし、そして襲ってきた人間だからだ。しかし、どうしてもそれに白鳥やクラスメートのみんなが巻き込まれなくてはいけないのかと。



白鳥渚は気づいていた。
一体どんなからくりなのか
分からないが、この会場の
観客席にいるのは、同じ学校

の生徒たちであるようだ。…ということは
恐らく一ノ瀬たちもあの中にいる。
そんな…なんてことだ…。

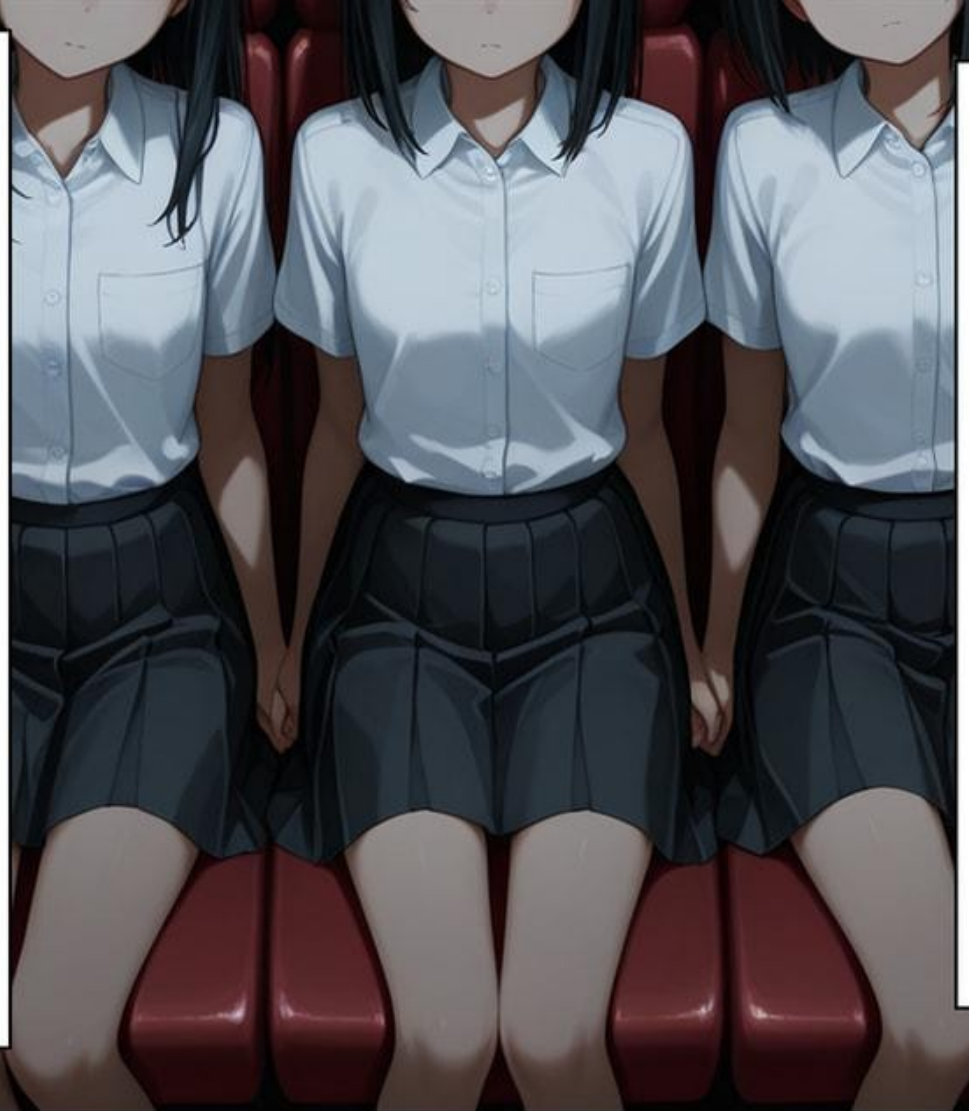


一体自分の脳がどういう仕組みに
なっているのかわからないが、

高速で踊り、回転し、ジャンプする
中で、薄暗い客席の中に確かに
一ノ瀬を見つけた。見つけてしまった。

ほんの一瞬だったが、恐らく
間違いない。あれは一ノ瀬だ。

何故か物凄く怒っている
様にも見えた。



いや、ある意味怒るのも
当然かもしれない。

少し前に「男として」
好きだ付き合ってくれと
言ってきた人間が、バレ
リーナとして目の前で

踊っているとすれば、
女の側からすれば
「一体どういうつもりなのか」
と言いたくもなるだろう。



嗚呼、でも違う！違うんだ一ノ瀬え！

オレだってこんなカッコしたくない！
でも服まで勝手に変形しちゃったんだ！
好きでこんなカッコしてるんじゃないんだあ！



い、一ノ瀬え！
だからオレのことを
変態認定するのは
ちよつと待ってくれ！

こ、このメイクだって勝手に
顔の上に湧き出てきたんだよ！
踊りだって身体が勝手に動いて踊ってしまふんであって、
自分から望んでバレリーナとしてバレエを踊りたいわけじゃ
ないんだよおおお！！



だ、だから…

オレのこの恥ずかしい恰好を
見ないで…見ないで…くれおおおお!!





あ

The image depicts three anime-style female characters in school uniforms running through a dark, narrow hallway. The girl in the center is running towards the viewer, while the two girls on either side are running away from her. The hallway has red seats or lockers on the walls, and the floor is dark. The overall atmosphere is mysterious and urgent.

「舞台と観客」関係が
かろうじて成立していたのは、舞台
が始まってすぐまでだった。

「異常」を察知した生徒たちが騒ぎ始め、
洗脳が解けたのか駆け回り始めた。

「洗脳」が解けたのか、バレリーナたちは次々に踊るのをやめた。



身体が勝手に踊ることこそ無くなった「少女たち」だが、変わり果てた姿という現実は変わらない。

呆然と立ち尽くす以外に
どうしようもなかった。



混乱の中、一ノ瀬はステージに
上がってきていた。

白鳥…だよね…？





い…一ノ瀬…。



踊るのをやめることが出来た
とはいえ、ここからの「後始末」
は本当に大変だった。

そりやもう本当に大変だった。



これが洗脳・強制女装だけだったら
いい。だがそうではない。

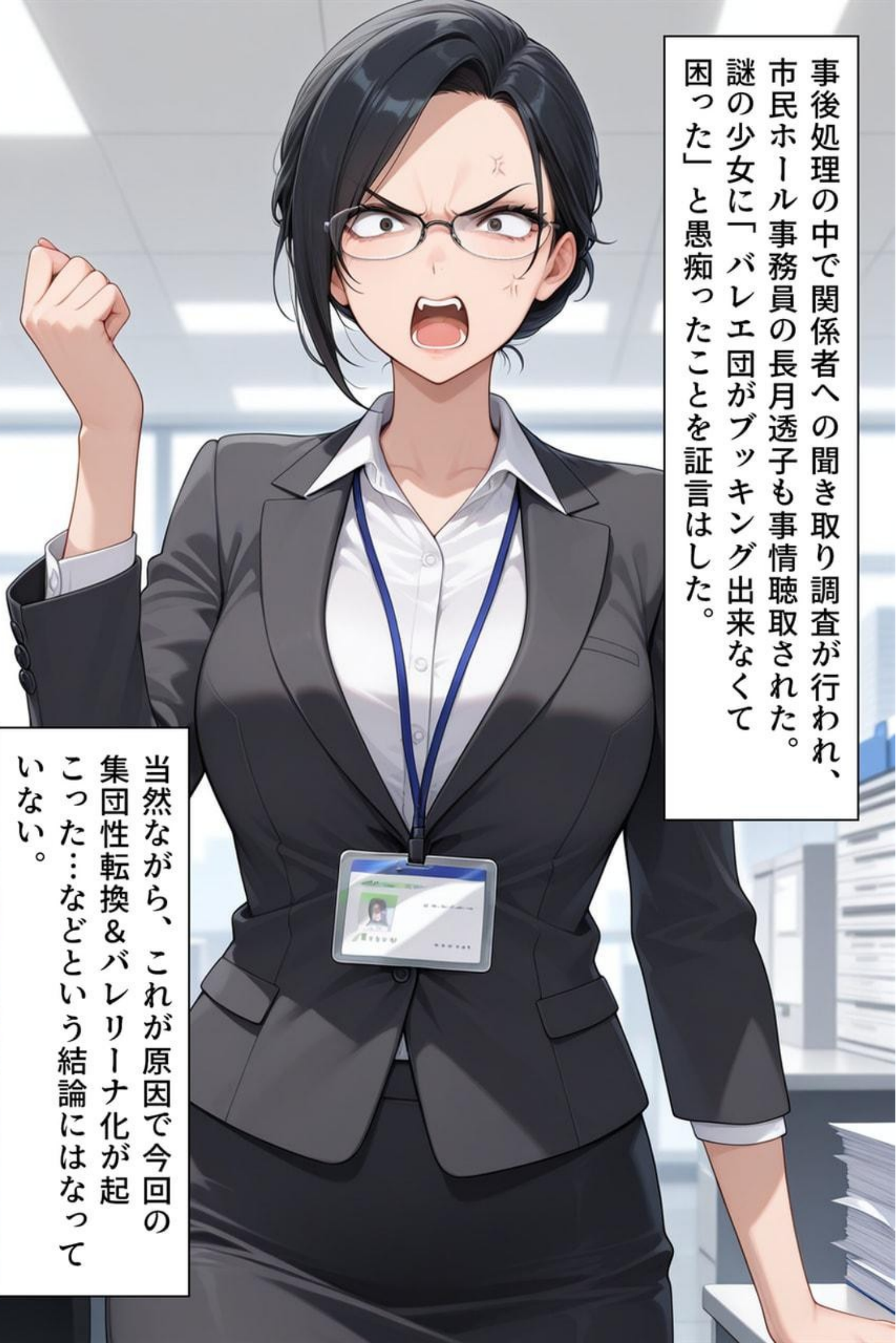




バレリーナにされた被害者の少年たちは全員が女への性転換も伴っていた。その精神的ケアも必要になってくる。

事後処理の中で関係者への聞き取り調査が行われ、市民ホール事務員の長月透子も事情聴取された。謎の少女に「バレエ団がブッキング出来なくて困った」と愚痴ったことを証言はした。

当然ながら、これが原因で今回の集団性転換&バレリーナ化が起こった…などという結論にはなっていない。





話を被害者たちに戻すと、彼ら
：いや、もう彼女ら：は地元から
遠く離れた地で着ていた服も何も
消失した上にこの有様である。

宿泊先に置いてあった着替え
を使うことでどうにか当面の
危機を脱し、地元に戻るこ
とになる。



それからまあ大変だった。医療機関の受診、関係者への説明、役所の手続きあれこれあれこれ…。楽しい修学旅行のはずだったのに、「日常」と呼べるものに回帰するのに一か月は掛かった。

だが、その「日常」は当然、それまでの「日常」とは違っているわけで…。





オレは「女子高生」となっていた。
どうやら男に戻れそうになかったし、
女であることを受け入れて生活し始めた。

ブラジャーをし、パンティを履き、スカートを
身に着けて登校する生活を始めるしかなかった。





あ、おはよう渚。

以前は「白鳥」と苗字で呼んでいたが、「女同士」となったことで心理的距離が近づいたのか「渚」と下の名前で呼んでくれる一ノ瀬。



一ノ瀬はもう女子同士のスキン
シップをしてくる。

全く…こちとらまだスカートにも
慣れてないってのに…。

女子化を泣いて嫌がってる様に見えた佐藤は、
今やすっかりなじんじゃってる。女子になっ
ても視力は変わらないみたいだ（笑）。

元々素養はあったのか、元男子の中では一番おしゃれ
を楽しんでいるとの噂だ。





女子高生同士話す姿は
もう生まれつきにしか
見えない。



もちろん全員が状況を受け入れ
たわけではない。例えば真宮寺は
少なくとも同校においては女子の
制服で復帰することは無かった。

男子の制服の着こなしにすら細部
をハイブランドでキメていた色男
が公衆の面前で「バレリーナ」で
は面目丸つぶれなのでそのショック
なのかそれっきりとなった。現在
どうしているのかはわからない。

そんな新しい「日常生活」が到来するさなか、
オレはまたレッスン場に一ノ瀬のバレエを見学
させてもらいに来ていた。

以前に訪問させてもらった時には、次に来る時には
スカートを履いてるだなんて想像もつかなかった。
そして、「違い」はそれだけじゃなかった。



結論から言うと、
オレはバレエ
を習い始めた。





バレエに限った話ではないが、全くの
未経験者が高校生にもなって始めて
大勢するようなものではない。

だが、先日の騒動に巻き込まれたオレ
には必然的に「ある程度踊れる女」に
されてしまったみたいだった。



オレはあの日泣いて嫌がっていたはずの
バレリーナのチュチュに自ら袖を通して
いた（袖無いけど）。当然、そんなこと
をしている元少年はいない。

一ノ瀬と同じく女子高生とバレ
リーナの二重生活をし、一ノ瀬
には及ばないが個人タイトル
まで獲得するようになっていた。

An anime-style illustration of two young women in ballet attire. They are both wearing light purple leotards with white tutus and have their dark hair styled in high buns. The woman on the left has red eyes and is looking at the woman on the right with a slight smile. The woman on the right has blue eyes and is looking down at her hands, which are clasped together in a prayer-like gesture. In the background, other ballerinas in white tutus are visible, and the setting appears to be a dance studio with large windows.

男と女だった時に恋人寸前に
まで行ったオレたちは、共に
バレリーナとしてキャリアを
積むことになった。



The image shows two anime-style female students in school uniforms standing in a line. They are both wearing blue blazers with a gold crest on the left chest, white shirts, and red bows. The student on the left has spiky black hair and is looking slightly to the right with a blush. The student on the right has long black hair and is looking forward with a slight smile. They are both holding rolled-up diplomas tied with red ribbons. In the background, other students in similar uniforms are visible, suggesting a graduation ceremony. A speech bubble is located in the bottom left corner.

「女子」として共に卒業した
オレたちはダンサーとして
世界を飛び回る生活になった。

いちいち示し合わせて会うのが面倒くさく
なったオレたちは同棲を始めた。



元よりオレは男と恋愛する気なんて無い。

一ノ瀬…じゃなくて結花もどうやら男にトラウマがある
みたいでこの生活は願ったりの様だった。







オレの身体は女になってしまったが、一ノ瀬とは「恋人」になることが出来た。出来てしまった。



An anime-style illustration of two brides in white wedding dresses, holding a bouquet of yellow roses. They are both looking down at the bouquet with soft smiles. The bride on the left has long black hair and a white veil with a floral headband. The bride on the right has short black hair and a white veil with a tiara. They are both wearing long white gloves and holding the bouquet with blue ribbons. The background is a warm, golden light, suggesting a church or a formal wedding venue.

オレたちは「正式に」結婚した。

そうなのだ。オレは何か引き返せなくなる気がして、
戸籍の性別変更を行っていなかった。

なので、肉体的には女でも、法律上はまだ「男」の
ままなのだ。なので生まれつき女である一ノ瀬…
もとい結花と結婚することは何も問題が無い。



An anime-style illustration of two brides in white wedding dresses and veils, kissing passionately. They are wearing pearl necklaces and earrings. The background is a bright, golden window with a cross pattern.

肉体的には「女同士」なので、
決して「祝福された結婚」では
無かったかもしれないが、オレ
たちは満足だった。

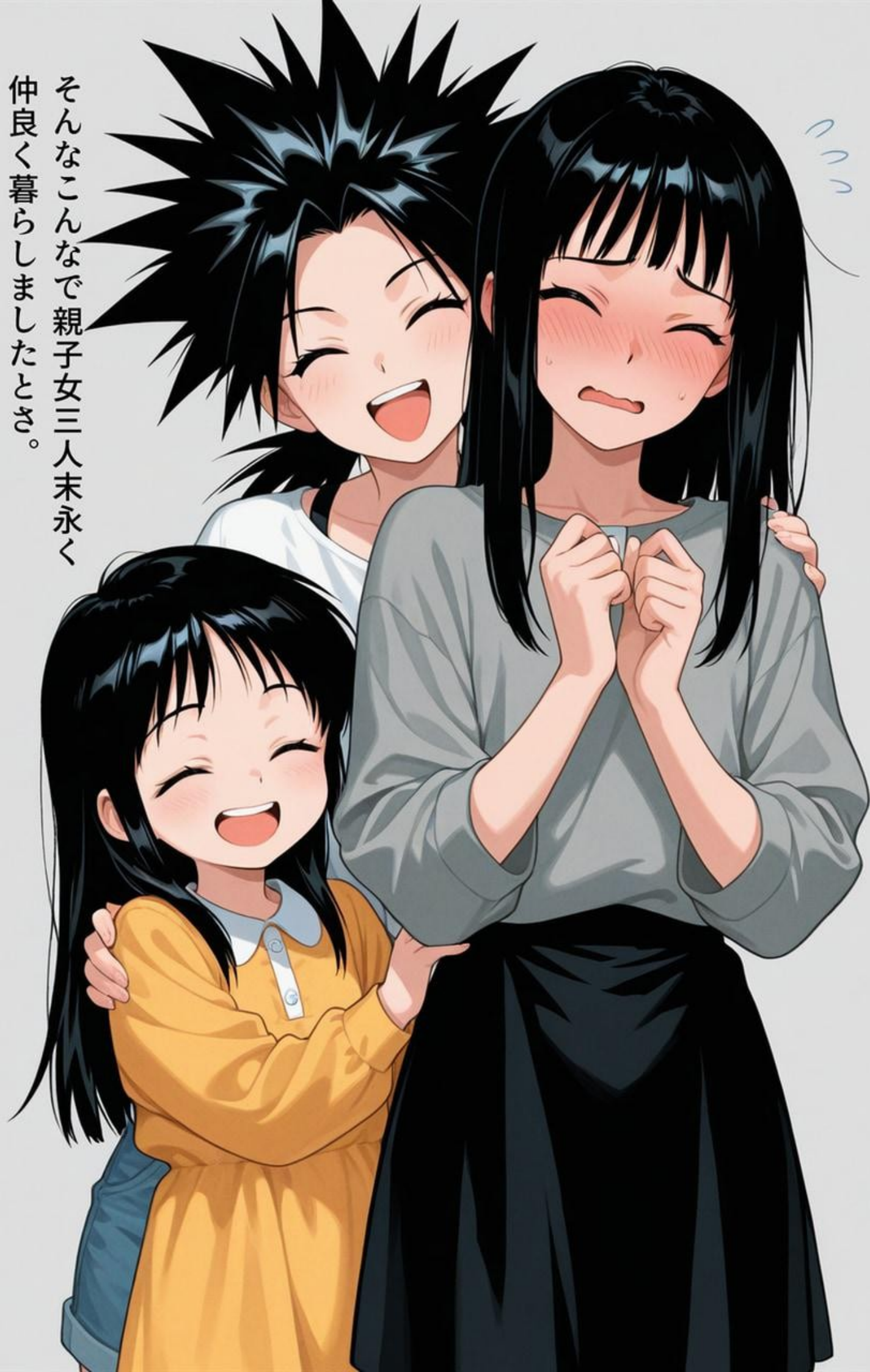


女同士なので子はなせないの、
里子をもらった。ママ二人という
特殊な状況だが、きっと理解して
くれるだろう。

残念ながらにわかバレリーナだった
オレは一ノ瀬ほどの才能は無く、
怪我を機に一ノ瀬のマネージャー
として生きていくことにした。



そんなこんなで親子三末永く
仲良く暮らしましたとさ。



…ってなことになってたらそれはそれで
面白かったんだろうけど…そうはならな
かったんだよなあ…。





じゃあ、オレと一ノ瀬が百合ツプル
になって家庭を築いて云々というのは
何だったかというと…まあ、妄想だよ。

でも、ステージ上でバレリーナ姿で一ノ瀬と相対した時にはもうダメだと観念したよね。

こんな姿を見られた恥ずかしさもあつたけど、これから先は「女子高生同士」になっちまうことを覚悟したときに一瞬で脳内に妄想が駆け巡った。



しかしそうはならなかった。会場が大混乱し、一ノ瀬がステージに乗り込んできたタイミングで、「魔法が解ける」様に元に戻ったのだ。

うっとりするほど美しかったバレリーナさんは間抜け面の男子高校生に戻ってしまった。



白鳥…一ノ瀬え…

佐藤もまた、変身前の姿に戻っていた。
リュックすらチュチュに収納されていた
のだろうか(?)。





急に元に戻った「少年たち」は
まだ女体…とそしてバレリーナ
衣装の余韻が残っていた。



かなり長期間、その「感触」
は残ったままだったという。

バレエのステージはその後なだれ込んできた生徒たちにより有耶無耶となった。

基本的にはバレリーナになった全男子生徒が元に戻ったことで「無事解決」ということになった。実際問題そうするしかなかった。





あんな騒動があった後ではあったが、
拍子抜けするほどあっけなく日常生活
は戻ってきた。

あれは夢だったんだろう…という
ことで男子も女子も落ち着いた。

一ノ瀬はこれまで
と同じく学園生活
とレッスン、そして
大きな国際大会を往復
する生活を続けた。



ただ一点、明確に違うのが
真宮寺と、その「取り巻き」の一群
だけはいなくなっていたことだった。



バレリーナと化して一緒に踊っていた
ことは多くの男子が確認している。
だが、その後については誰も知って
いる者はいなかった。
帰りのバスにも乗っていなかった
ことが分かっている。

一説にはこの騒動によって、
真宮寺とその取り巻きだけは
バレリーナから男に戻れなかった
と言われている。



正直、よくない噂も多い
奴だったので一部では
いい気味だとする声も
あった。



そしてあの騒動以来、吹っ切れたのか
一ノ瀬とは公認カップルとなった。

どうも真宮寺とは何かあったみたい
だけど、それだけは教えてくれなかった。



オレもこんな美少女バレリーナ
と付き合えてうれしいのだが、困る
のは頻繁に「あの話題」でこっちを
からかってくることだ。

…え？…



チュチュとトゥシューズの
着心地はいかがでしたか？
渚さん？

そんなこと言われても照れて黙り
こむしかない。意外とサドっ気が
ある子なのかもしれない。



そんなこんなで今回の騒動は一部の悪意を持った「輩」の排除と、そして一部のいたいけな「男子」たちによりによって「バレリーナ」を肉体ごと体験させ、ある種のトラウマを

植え付けて終わった。余りにも現実離れしていたため、今でも現実だったのか何だかわからない。きつと将来は笑い話になるのだろう。ということでの物語はここで終わる。



終

あとがき 真城悠

子供のころ、定番の「女装」といえば、セーラー服とそして「バレリーナのチュチュ」でした。恐らくそれは「8時だよ！全員集合！」（1969-1985）の影響も大きかったと思われます。

個人的にはとにかくもう「名状しがたい」としか言えない唯一無二のフォルムから目が離せません。

どうやらそれは海外でも事情は同じらしく「男性メンバーのみで構成されたバレエ団」を謳う団体が複数存在します。

それはとりもなおさず「男性がバレリーナの衣装で女装して踊りますよ」ということが「売り」になっていることに他ならないわけです。

まるで鶏が先か卵が先か論争みたいですが、私は「全員集合！」でバレリーナ女装が出るのかどうかに一生懸命注目して見ていた覚えがあります。

半裸に近い薄着の衣装に、申し訳程度のスカートの、体形の浮き出すフォルムとまるで男性の目の保養のために作られたかの様な衣装にも見えます。

実際それはそれほどの外れではなくオペラなどと並んで貴族の観劇する趣味ですから、当然そうした要望はある程度反映されています。





劇中でも触れましたが、同時に「女の子のあこがれ」の存在でもあります。これは「バニーガールの衣装」などではありえない現象ですから、やはりかなり特殊な立ち位置の衣装だと思います。

ともあれ、この衣装ほど「コテコテの女装」に似合う衣装ありません。男性コメディアンが白銀のクラシック・チュチュで飛び出してくれば間違いないある程度の「笑い」は取れてしまいます。

そんな中、筆者にトラウマを植え付ける作品が放送されました。それがアニメ「うる星やつら」の「第139話 愛と闘魂！グローブVSパンツの決闘！！」（1984年6月20日放送）でした。

コミックの原作通りに進むのは前半までで後半のアニメオリジナル部分が正にトンでもなかったのです。

前半ではそれほど本筋に絡んでいなかった二枚目の立ち位置でありながらコメディリリーフでもある面堂終太郎が突如、ほぼ何の脈絡もなく「バレリーナのチュチュ」姿で現れるのです。

一応「呪われたトゥシューズ」に「取り憑かれた」ために「踊って踊って踊りまくらなくては成仏できない」という理由付けはされていましたが、実際には「面堂をバレリーナ女装させるため」の方便にしか過ぎないでしょう。



当時（1984年）の制作事情は推測するしかありませんが、「うる星やつら」はあらゆるタブーを破った破天荒アニメです。

中でも209話存在するTVシリーズ（1981年放送の旧シリーズのみを指す）の中で実に「19回」にも及ぶ、「女装・入れ替わり・女体化」が「タブー破り」のトップの位置を占めていたと言って間違いないと思うのです。

中でもこの面堂終太郎という「二枚目」が「バレリーナの恰好で公衆の面前で踊られる」という展開は「戦慄」しました。改めて見てみると分かるのですが、実際にプリミティブに「女装」のみを前面に押し立てて「どうです！ トンでもないでしょ！」とやっている感じがします。

作画レベルが平均的に高いとは言えない同作にあってもなかなか辛い回で、チュチュはまるで練習着みたいですし、髪飾りも何もなし。でもバレエの動きはなかなか頑張っていました。すみません偉そうで。

話を戻しますが、ある意味においてバニーガールやウェディングドレスに匹敵するほど「いかにも女性らしい」この衣装は「強制女装」させるにはうってつけのアイテムでもあります。

ですので、いつかはメインモチーフとして採用する機会を伺っていました。

実際、「うる星やつら3大TS回」だと思っている。「原生動物の逆襲・プールサイドは大騒ぎ」（1984年8月5日放送）と「幸福押し売り」・ピントはずれの青い鳥」（1985年9月4日放送）に題材をとった同人誌は既に作成・発売していました。

「次はグローブ対パンツ（つまりバレリーナだ!）」とずっと考えていたのです。

しかし、当時使っていた画像生成エンジンの「モデル」がどうしても私が求めるクオリティの「チュチュ」を出力してくれません。

どんなプロンプトを入力しても、Loraを使ってもダメでした。

ところが「X」のイラストリアスモデルで理想的なチュチュが出力されること分かり、無事に完成・発売の運びとなりました。

今回のサブタイトル「トウシューズを履かされた男たち」は忘れもしない、中学次代の修学旅行先のホテルのTVから流れてきたフリーズでした。

恐らくその地元にどこかのバレエ団が公演に来ていたのでしょう。そこでバレリーナ姿に扮した男性ダンサーによる演目が予定されていたのだと思います。



いやというよりは、普段は普通の（？）バレエ公演を行っているけど、今回は女装のみで行きますよ：というニュアンスでした。

何しろオスガキ連中のみで雑魚寝から起き上がって布団を畳まされている真っ最中に一瞬だけ見たCMです。インターネットなんて影も形もない時代です。

とにかく「トゥシューズを履いた男たち」というフレーズが余りにも詩的かつ刺激的でした。



その後、とあるドキュメンタリーをこれまたチラ見したのですが、その時画面には色とりどりの美しい衣装を着た男女のバレエダンサーが可憐に舞い踊っていました。

そしてそこにナレーションが被さったのです。

『このバレエ団は、男性のみで構成されています』

：つまり、あの美しい男女カップルの集団に見えるバレエダンサーたちの「女役」の人たちも一人残らず男ってことなの！？：と。

ある意味において「全員がバレリーナに女装しているバレエ団」よりも刺激的なビジョン、イメージでした。

歌舞伎などでは「父親」が自分の「妻役」を演じることもあるそうですが、男性の同僚をバレリーナとして腰をささえて回転させる気分はどうなのか：。

いや、それよりも何よりも、いくら「仕事」とはいえ、綺麗にバレリーナとして着飾って、恐らく日常生活においては「おれ、お前」の関係であろう「男」によってリフトアップ（持ち上げ）られて、くるくると回転し、顔をのけぞらせて恍惚の表情をしなくてはならないのは一体どんな気持ちなのか…と思わず考えてしまったのです。



そしてその時に同時に浮かんで来たのが「楽屋」の風景でした。仮にプロのバレエダンサーとして働いていて「次の公演はお前、女役な」と言われたら一体どうすればいいのかと。

仕事なので仕方なくチュチュを着てメイクした状態の「同僚」とお互いに顔を見合わせた時の気まずさ…みたいなものが脳内にイメージとして流れ込んできたのです。



ですので、今回の作品を作る目的の最大のそれが「バレリーナ姿で楽屋に集合させられている（元）男の子たち」というシチュエーションを「絵にする」ことでした。

これまた従来のモデルではなかなか難しいものだったので、今回かなり満足のいく絵が出来たと思っています。男性読者の皆さんもバレリーナにされて、バレリーナだらけの楽屋に待機させられたら…とか思うでしょ？

また、今回は恐らく世界中に私一人しか愛好家のいない「集団性転換パニック」ものでもあります。過去には「青い鳥」に材を取った「ブルーバード 集団性転換&強制女装パニック！」という「集団性転換パニック」ものを作っています。この時は「現代風の高校生の制服」がメインでした。



作 眞城 悠
絵 Pixai

集団性転換&
強制女装パニック！



青い鳥の幸福

強制女体化・強制女装させられる男たち！

作:真城 悠
絵:Pixai

とある高校で、老若男女関わらず全員がバニーガールにされる「恐怖のバニーガール化現象 戦慄の集団性転換パニック！」とかセーラー服中心で



恐怖のバニーガール化現象

戦慄の集団性転換
パニック！

作 chroki
絵 Pixai



エイト・チャンス

オレたちは女にされ「花嫁」にされた

作 真城 悠
絵 Pixai Moonbeam

うる星やつらの「青い鳥」がメインのモチーフなのでタイトルもそのまんまの「青い鳥の幸福 強制女体化・強制女装させられる男たち！」という作品も作っています。
また、偶然休日に学校で作業をしていた男子たちが純白のウェディングドレスの花嫁さんにされてしまう「エイト・チャンス オレたちは女にされ「花嫁」

にされた」ではウェディングドレスをモチーフにしています。
これらの作品で選ばれた衣装は、極論すれば単に「刺激的」だから選ばれたとしか言えません。



作:真城 悠
絵:Stable Diffusion Web UI+Pixai

待望の新モデルを迎えて、満を持して「集団バニーガール化」のお話をリメイクした段階で「次はバレリーナ」でした。

最初はこれまで紹介した作品群と同じく「単なる衣装」として着せられる予定でした。

毎度「学園の日常から集団性転換パニックではマンネリ」だと考えていた

私に「なら修学旅行中とかはどう？」と知恵を授けてくれたのは知人でした。素晴らしいアイデアなので即採用だったのですが、どうにか衣装をもう少し有機的に物語に織り込めないかといざ走り出すまでに時間が掛かりました。そこで思いついたのが、ちゃんとした職業バレリーナの子を重要な登場人物として出演させることでした。そこに集団バレリーナ化が起これば面白い展開に出来るのではないかと。



ここは「あとがき」なのでネタバレしますが、今回の被害者の一部は「勧善懲悪」的に女にされる屈辱にまみれるので読者には痛快に見えてしまうかもしれない。私のモットーは「不条理」で、何の罪も責任も無い人がひどい目に遭う話が好きなのでこれも実験的に試してみています。

また、これは「少年誌」に掲載される作品ではないので、「結局女になったっ



きり、元に戻ることは出来ませんでした」から一歩進んで「何だかんだで女として幸せに暮らしています」というオチにすることが多かったのですが、今回は珍しく「ちゃんと戻れる」展開となります。これも読者の皆さんには感想を聞いてみたいところです。

また、私などは「生理的嫌悪感」を催し兼ねないほど男性のパーツを残しながら徐々に性転換していくビジュアルに興奮するところがあるのですが、「人類には早すぎる」ということなのか、余り人気がある展開ではないこともあって、今回もちゃんと「可愛い」レベルでお楽しみいただけるものになっていると自負しております。

余りにも素晴らしい没カットが日々量産されるため、今回も画集出します。また、アダルト版も続いて制作予定です。ではまた次回作にて。

(二〇二五年五月二四日(土) 真城 悠)